

ノートブック コンピューター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



PCG-C1



警告

安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながる場合があります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～12ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したとき



- ① 電源を切る
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜く
またはバッテリーを取りはずす
- ③ VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



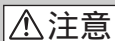
危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながる場合があります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意

火災

感電

行為を禁止する記号



禁止

分解禁止



水ぬれ禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号



強制

プラグをコンセントから抜く

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。

本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。

本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。

本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。

必ず事前に試し撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

万一、機器やソフトウェアなどの不具合により録画・録音がされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

目次

安全のために	2
△ 危険・△ 警告・△ 注意	6
こんなことができます	13
マニュアルの使いかた	16
オンラインマニュアルの使いかた	17
各部のなまえ	21

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる	26
電源を切る	28
再起動する	29
ACアダプターを持ち運ぶ ときは	29
ポインティング・デバイスを使う	30
キーボードを使う	33
文字を入力する	35
日本語入力を準備する	35
入力のしかたを選ぶ	37
文字を入力する	38
フロッピーディスクを使う	43
フロッピーディスクドライブを 取り付ける	43
フロッピーディスクを入れる	45
データを書き込み禁止にする	46
使用できるフロッピーディスク	46
バッテリーで使う	48
バッテリーパックを取り付ける	49
バッテリーを充電する	50

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ	51
インターネットとは	51
インターネットを始める	52
インターネットに接続する	54
外出先でインターネットに アクセスする	55
静止画を取り込む	58
内蔵カメラ (Motion Eye) を 使う	58
i.LINK対応機器から静止画を 取り込む	61
パノラマ画像を作る	62
静止画を電子メールに添付する	63
動画を取り込む	67
動画を電子メールに添付する	70
情報をメモして活用する	72
本機のメモ機能について	72
文字でメモをとる (Smart Write)	72
作成したデータをインターネットに 送信する (Smart Publisher)	74
音声でメモをとる (Smart Label)	76
好みのソフトウェアを自動的に 起動する	79
内蔵カメラ (Motion Eye) で ソフトウェアを起動する	79
ワンタッチでソフトウェアを 起動する	82
内蔵タイマーでソフトウェアを 起動する	84
ワンタッチで電子メールを確認 する	86
PPK Setupソフトウェアの 制限事項について	88

他の機器とデータをやりとりする	89
赤外線 (IrDA) でデータをやりとりする	89
ネットワーク (LAN) でデータをやりとりする	93
PCカードでデータをやりとりする	93
内蔵カメラ (Motion Eye) を使って音楽を楽しむ	94
内蔵カメラからの映像で音楽を再生する	95
オリジナルの音楽を作曲する	96
音楽CD / ビデオCDを再生する	98
いろいろなソフトウェアを使う	99

拡張編

周辺機器を接続する

電話回線につなぐ	102
電話回線のコンセントの種類	105
CD-ROMドライブをつなぐ	106
CD-ROMドライブを取り付ける	106
i.LINK対応機器をつなぐ	108
デジタルスチルカメラを使う	109
ソニーデジタルスチルカメラと赤外線で接続する	109
他のデジタルスチルカメラを使う	110
プリンターをつなぐ	111
パラレルコネクター付きのプリンターをつなぐ	111
USB対応のプリンターをつなぐ	112
赤外線通信対応のプリンターを使う	113
プリンターを使用する	113
マウスをつなぐ	114
外部ディスプレイをつなぐ	115

本体を拡張する

メモリーを増設する	117
PCカードを使う	117
PCカードとは	117
PCカードを取り付ける	118

その他

使用上のご注意	122
お手入れ	126
保証書とアフターサービス	127
主な仕様	128
リカバリCDで本機を再セットアップする	130
キーボードショートカット	135
故障かな?と思ったら	137
索引	147

以下のセットアップ関連の項目については、PCG-C1のオンラインマニュアルをご覧ください。

- 本機の使用環境を設定する (Sony Notebook Setup)
- バッテリーの消費電力を節約する (PowerPanel)
- バッテリーの残量を確認する (BatteryScope)
- 画面表示の設定を変更する
- ポインティング・デバイスの設定を変更する
- ソフトウェアをアンインストールする / 再インストールする

オンラインマニュアルを見るには、「オンラインマニュアルの使いかた」(17ページ)をご覧ください。



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。



禁止



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。



水ぬれ禁止



内部を開けない

内部には電圧の高い部分があり、開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。



分解禁止



ACアダプターはプラグ付近を持って抜く

ACアダプターのコード付近を持って抜くと、コンセントを壊すことがあります。壊れた部分を触れると、感電の原因となります。



強制

指定のACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



禁止

雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



禁止

ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。



禁止

本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となります。



禁止

モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN(デジタル)対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機(PBX)へ接続すると、モデムに必要な以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。

特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。



禁止



警告

下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。

ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやポインティング・デバイスなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。

キーボードやポインティング・デバイスを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みが取れないときは医師の診察を受けてください。



禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺**の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACアダプターにさわらない

ぬれた手でACアダプターの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。



接続するときは電源を切る

ACアダプターや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切ってください。感電や故障の原因となることがあります。



指定されたACアダプターや接続ケーブルを使う

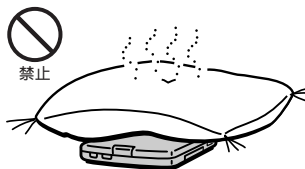
取扱説明書に記されているACアダプターや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物(じゅうたんや毛布など)の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



通電中の本体やACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。





下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



禁止



本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



禁止



お手入れの際は、電源を切ってACアダプターを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く



移動させるときは、ACアダプターや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。また、本機を落とさないようにご注意ください。



注意



コネクターはきちんと接続する

- コネクターの内部に金属片を入れないでください、ピンとピンがショート(短絡)して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。



注意



長時間使用しないときはACアダプターを抜く

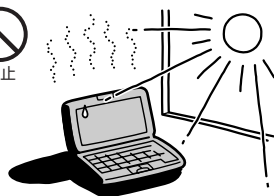
長時間使用しないときは、安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。



プラグをコンセントから抜く

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



禁止

バッテリーに衝撃を与えない

バッテリーを落としたり、重いものを載せたりしないでください。また強いショックを与えたり、圧力をかけたりしないでください。故障の原因となります。



禁止

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。
- 本体付属または別売りのバッテリーパック以外は使用しないでください。

警告

バッテリーパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプターが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本体やACアダプターが普段よりも異常に熱くなったときは

本機の電源を切り、ACアダプターをコンセントから抜き、バッテリーパックを取り外してください。次に、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または購入された販売店に連絡してください。

こんなことができます

VAIOノートが広げるモバイルワールド

本機はモバイル機器として十分な可搬性と、実際のモバイル環境での使いやすいさを追求して設計された、ソニーならではのノートブックコンピューターです。ここでは、本機の特長と、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。

軽量コンパクト設計の本機を持ち運ぶ

約1.1kg(バッテリー含む)の軽量ボディに、モバイル環境で便利な機能を満載しています。お気軽にどこへでも持ち運べます。大容量タイプバッテリー(別売り)を装着することで、外出先での使用時間も、最大で約6.5時間確保できます。

内蔵カメラ(Motion Eye)で動画や静止画を撮る

動画を撮って簡単なビデオメールを送ったり、会議の様子を撮影して静止画入りのレポートを作成したりすることができます。何枚かの静止画をつなげてパノラマ画像を作ることもできます。

情報を気軽に入力する

付属の「Smart Write」ソフトウェアを使うと、すばやく静止画と声のメモを取ることもできます。キーボードを打てない状態のときでも、大事な情報はのがしません。また静止画、文字、音声のメモをHTMLで出力し、自分のホームページに簡単に載せられます。

CyberCode Finderを使ってソフトウェアを起動する

付属の「CyberCode Finder」ソフトウェアを使うと、内蔵カメラ(Motion Eye)にCyberCodeをかざすことで、あらかじめ登録したソフトウェアを起動することができます。キーボードでの操作をせずに使いたいソフトウェアを起動することができます。

CyberCodeとは

CyberCodeは、ソニー独自の2次元バーコードで、16,777,215通り(24ビット)存在します。このうち、1,048,575通り(20ビット)のCyberCodeをそれぞれ、任意のプログラム起動用として登録することができます。残りのCyberCodeは、将来のサービス拡張用です。CyberCodeはそれが貼られたものから、対応するコンピューター上の情報を引き出すためのインデックスの役割をします。

「CyberCode Finder」のファインダー画面を通して、プログラムが起動されることにより、あたかもCyberCodeが貼られたものから、対応する情報がコンピューター上に飛び出してくるような新しいユーザーインターフェースを提供します。

プログラマブルパワーキーでワンアクション機能を実現する
付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、プログラマブルパワー
キーを押ただけで自動的に電子メールを受信するよう設定したり、音声
メモができるよう設定したりできます。

とっさのときに便利な機能を割り当てておくと便利です。

タイマー機能を活用する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、深夜に自動的に電子
メールを取り込むように設定したりできます。「目覚ましメロディを再生
して、その日のスケジュールを表示する」といった自動処理マクロを毎朝
実行するよう登録することもできます。

いろいろな組み合わせを試して、自分ならではの活用法を見つけてみま
しょう。

i.LINKを使って静止画を取り込む

本機のi.LINKコネクターにつないだ、i.LINK(IEEE1394)インター
フェースを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどから、デジタル信号
のまま美しい静止画を取り込めます。

デジタルスチルカメラから静止画を取り込む

別売りのソニーデジタルスチルカメラからケーブルをつなぐずに、赤外線
通信で静止画を高速に取り込めます。

内蔵カメラ(Motion Eye)を使って音楽を楽しむ

付属の「Sonicflow」ソフトウェアを使うと、内蔵カメラからの映像に合
わせて自動的に音楽を生成したり、音楽をインタラクティブに操作して、
リミックスすることができます。

AV再生を楽しむ

付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使って、WAVEファイルや
MIDIファイルといった、サウンドファイルを再生できます。

また、別売りのCD-ROMドライブをつなぐと、ビデオCDも再生できま
す。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の
情報に接したり、電子メールをやりとりできます。

ノートブックパソコンとしての特長

本機は軽量で、バッテリーで使用できるノートブックパソコンです。この特長を生かして、本機を使いこなしてください。

外出先でデータ収集

携帯電話やPHSとつないで、外出先でもインターネットに接続して情報収集したり、電子メールで情報交換できます。

旅行や出張のおともに

旅行先から家族・友人に電子メールを送信できます。内蔵カメラ (Motion Eye) を使って撮影した静止画や動画を電子メールに添付して送ることもできます。旅の便りも電子メールで。その日のうちに新鮮な感動が届きます。

使用環境に合わせたバッテリー管理

付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使えば、処理速度を優先したり、バッテリーの寿命を優先したりなどといった動作環境を簡単に設定できます。また、付属の「BatteryScope」ソフトウェアを同時に使うことで、バッテリーの使用可能時間なども同時に把握できます。これで「プレゼンテーション中に突然のバッテリー切れ」といった心配もありません。

マニュアルの使いかた

本書は、以下のように構成されています。

□ 操作編

パソコンを初めてお使いになる方は、「基本的な使いかた」からお読みください。一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」をご覧ください。

□ 拡張編

プリンターなどの周辺機器のつなぎかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

□ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな?と思ったら」をお読みください。

セットアップ関連についてはオンラインマニュアルをご覧ください。

また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

本機でできることの一部をご紹介します。

こんなことがしたい	詳しくは
静止画を撮りたい	「静止画を取り込む」(58ページ)
動画を撮りたい	「動画を取り込む」(67ページ)
CyberCodeを使ってソフトウェアを起動させたい	「好みのソフトウェアを自動的に起動する」(79ページ)
インターネットを楽しみたい	「インターネットを楽しむ」(51ページ)
手軽にメモをとりたい	「情報をメモして活用する」(72ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」(109ページ)
他のパソコンのデータを本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」(89ページ)

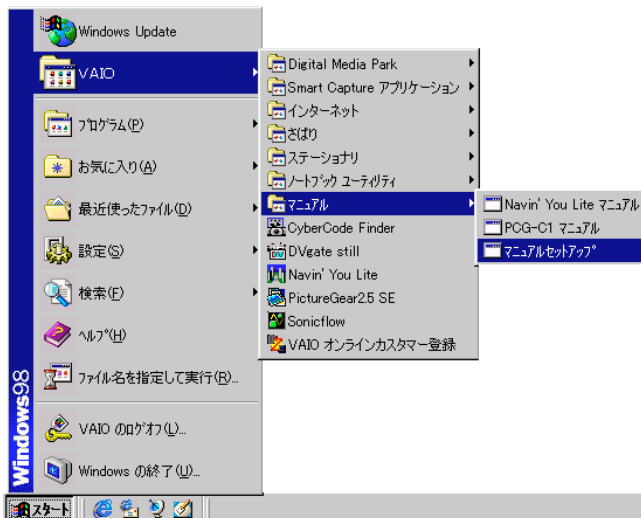
オンラインマニュアルの使いかた

操作のしかたや本機の使用環境の設定方法などを、オンラインマニュアルとして画面上で見られます。また、いくつかの付属ソフトウェアのオンラインマニュアルも画面上で見られます。

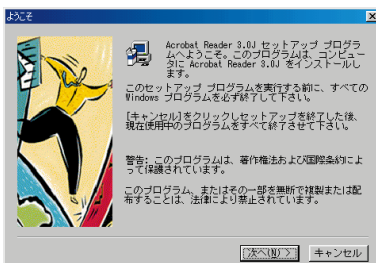
オンラインマニュアルを準備する

オンラインマニュアルを見るには、付属のソフトウェア「Adobe Acrobat Reader 3.0J」を本機にインストールする必要があります。次の手順に従って操作してください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[マニュアル]を選び、[マニュアルセットアップ]をクリックする。



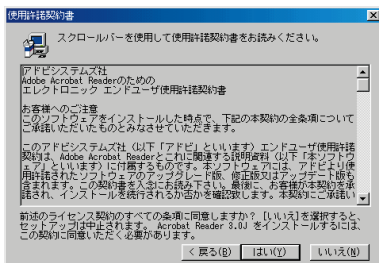
- 2 [次へ]をクリックする。



次のページにつづく

3 画面の内容を確認し、[はい] をクリックする。

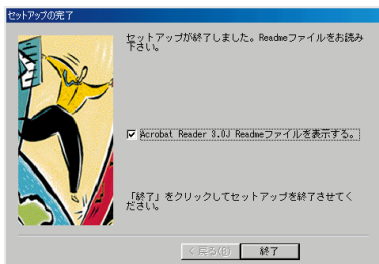
「ようこそ」画面のつぎに、「使用許諾契約書」が表示されます。内容を確認し、[はい] をクリックします。



引き続き画面の指示に従って操作します。前の画面を見るには[< 戻る] をクリックします。

4 [終了] をクリックする。

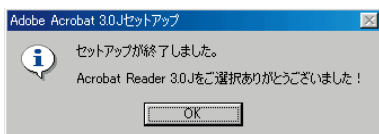
Readmeファイルが表示されます。



5 Readmeファイルの[ファイル]メニューから[メモ帳の終了]を選ぶ。

「Adobe Acrobat 3.0Jセットアップ」の画面が表示されます。

6 [OK] をクリックする。

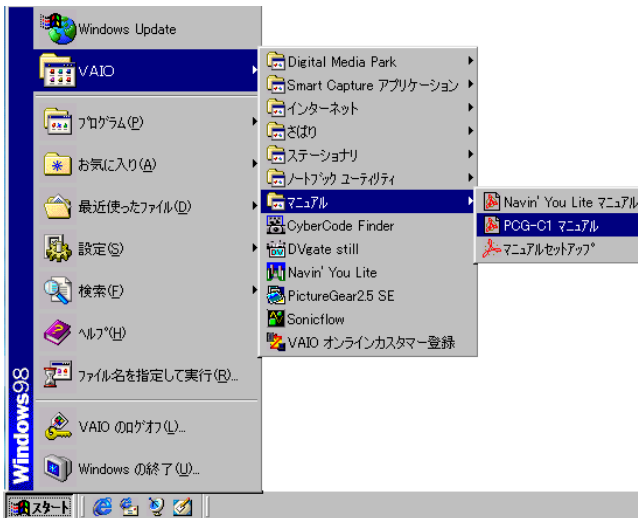


これでインストールが終了しました。

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

[スタート] ボタンをクリックして [VAIO] にポインターを合わせ、[マニュアル] を選び、[PCG-C1 マニュアル] をクリックする。




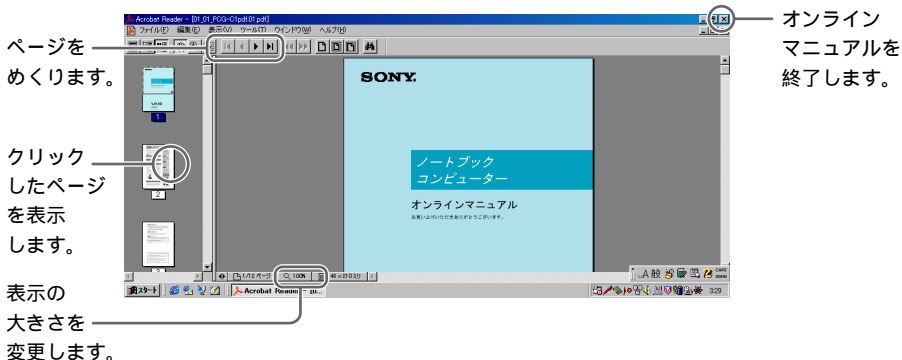
オンラインマニュアルの表紙が表示されます。



オンラインマニュアルの見かた

基本的なオンラインマニュアルの見かたを説明します。

サムネイル(縮小表示)を見たいときは、をクリックします。

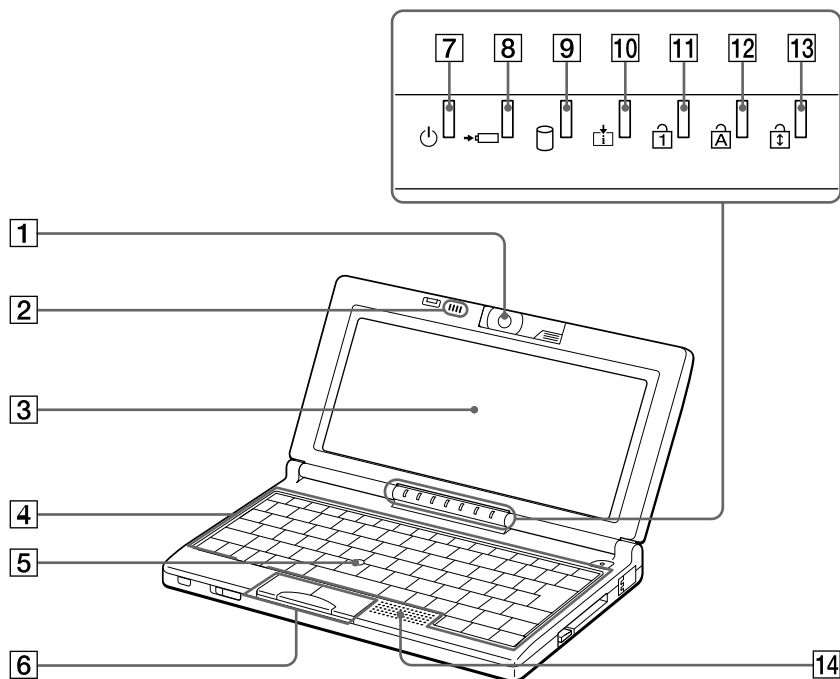


各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

各部のなまえ

詳しい説明は、()内のページをご覧ください。



1 内蔵カメラ (Motion Eye)
(58、79、94ページ)

2 内蔵マイク (77ページ)

3 液晶ディスプレイ
(122、136ページ)

4 キーボード (33、135ページ)

5 スティック (30ページ)

6 左 / センター / 右ボタン
(30ページ)

7 電源 (パワー) ランプ (27ページ)

8 電池 (バッテリー) ランプ
(48ページ)

9 ハードディスク (ハードディスク) ランプ

10 インフォメーション (インフォメーション) ランプ
(85ページ)

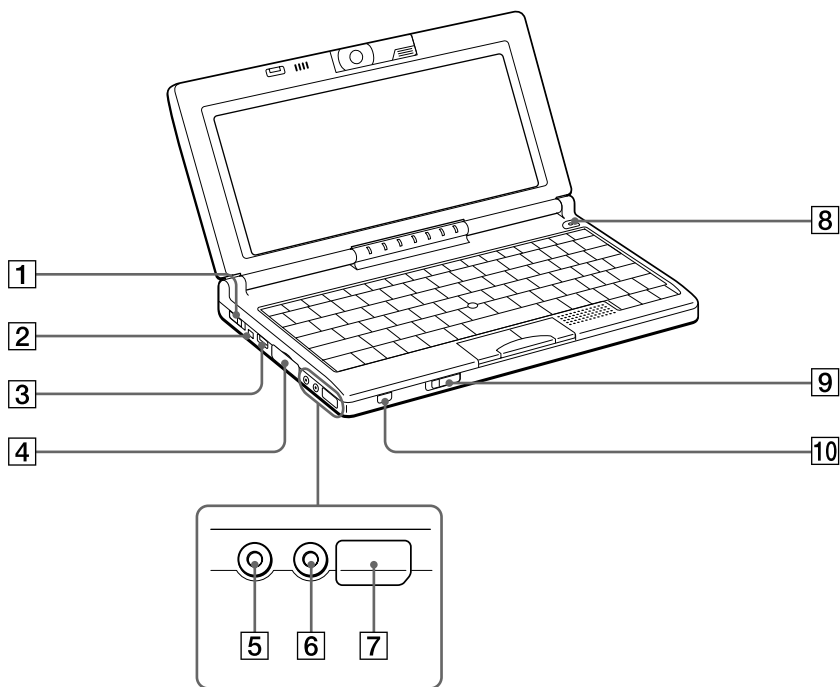
11 Num Lock (Num Lock) ランプ
(139ページ)

12 Caps Lock (Caps Lock) ランプ

13 Scroll Lock (Scroll Lock) ランプ

14 内蔵スピーカー
(136ページ)

本機左側面



① 電源スイッチ
(27ページ)

② iS200 i.LINKコネクター
(108ページ)

③ USBコネクター
(43、112、114ページ)

④ 外部ディスプレイコネクター
(115ページ)

⑤ マイクコネクター

⑥ 〇(ヘッドホン)コネクター
(116ページ)

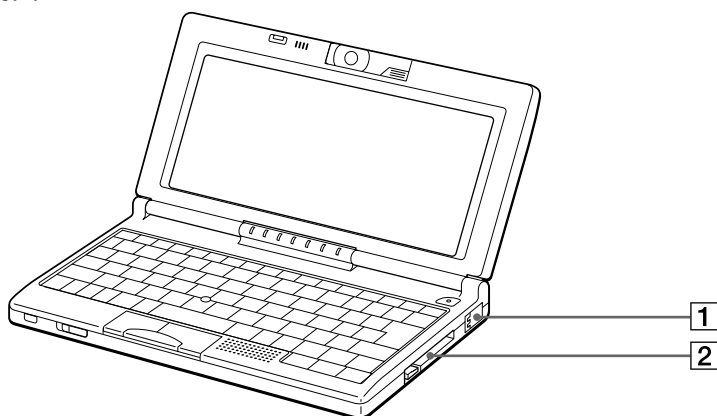
⑦ 赤外線通信ポート
(89、109、113ページ)


⑧ CAPTUREボタン
(59、68ページ)

⑨ ディスプレイロックレバー
(27ページ)

⑩ プログラマブルパワーキー
(82ページ)

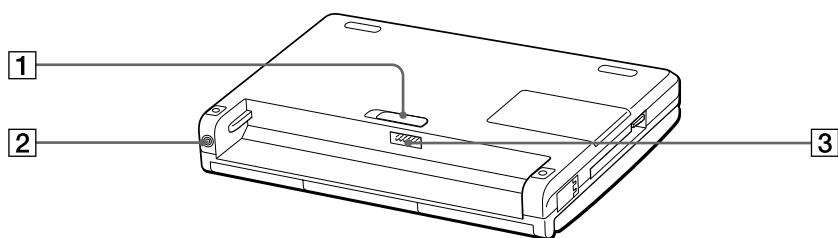
本機右側面




1  モジュージャック
(103ページ)

2 PCカードスロット
(106、118ページ)

本機底面



1 取りはずしレバー (50ページ)

2  (DC IN) コネクター
(26ページ)

3 バッテリーコネクター
(49ページ)

操作編

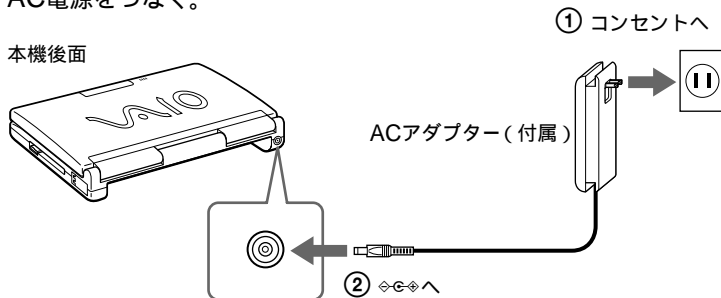
この章では、最初に本機の基本的な使いかたを、次にいろいろな目的にあった本機の使いかたを説明します。

第 1 章

電源を入れる

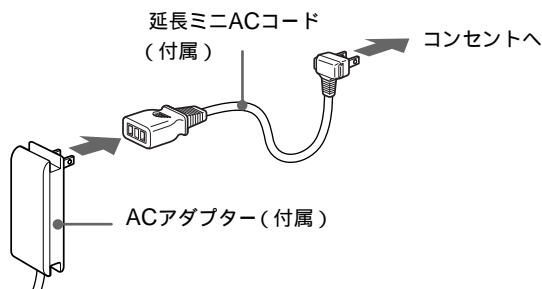
ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。バッテリーを使うときは、「バッテリーで使う」(48ページ)をご覧ください。

1 AC電源をつなぐ。



💡 ACアダプターをお使いになるときに

本機のACアダプターを差し込み口が複数あるコンセントでお使いになるとき、同一コンセント上に他の機器のACアダプターを差し込むと、本機のACアダプターとぶつかり正しく差し込めないことがあります。そのときは、別のコンセントをご使用になるか、付属の延長ミニACコードを本機のACアダプターに取り付けてお使いください。

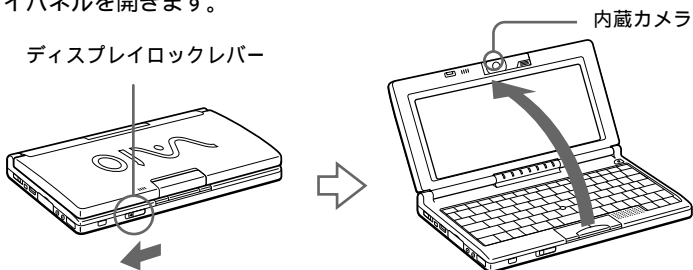


ご注意

延長ミニACコードのコード部分を無理に曲げたりしないでください。

2 ディスプレイパネルを開く。

ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開きます。



ご注意

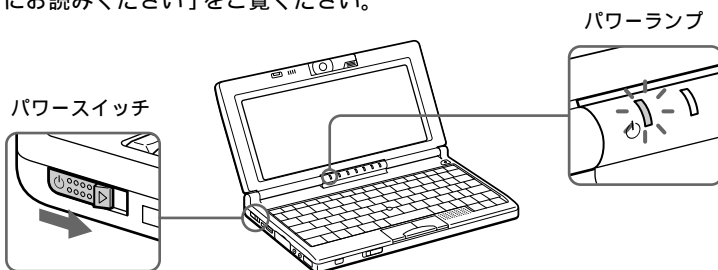
次のことを守らないと、故障の原因となります。

- ディスプレイパネルを開くときは、内蔵カメラの部分を持たないでください。
- 内蔵カメラを外側に向けたままディスプレイパネルを閉じないでください。
- ディスプレイパネルを閉じた状態で内蔵カメラを回さないでください。

3 パワースイッチを▷の方向にずらし、パワーランプが点灯(グリーン)したら離す。

本機の電源が入り、しばらくして、Windows 98が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 98セットアップ画面が表示されます。Windows 98セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



電源を切る

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

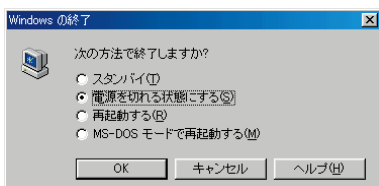
ご注意

以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなったりすることがあります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。



- 2 メニューの[Windowsの終了]をクリックする。
「Windowsの終了」が表示されます。



- 3 「電源を切れる状態にする」をクリックして選び、つぎに[OK]をクリックする。
「しばらくお待ちください」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れ、パワーランプ(グリーン)が消灯します。

「スタート」メニューから[Windowsの終了]を選んでも電源が切れないときは

パワースイッチを4秒間以上▷の方向にずらしたままにして、パワーランプが消えたら離します。ただし、この操作をすると作成したファイルが使えなくなることがあります。

💡 移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、システム サスペンドモードやシステム ハイバーネーションモードを使うと便利です。

詳しくはオンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」、「省電力動作モードについて」をご覧ください。

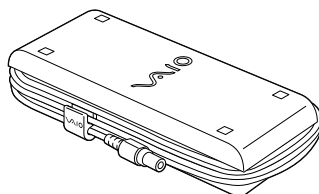
再起動する

本機の設定を変更したり、アプリケーションソフトをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。
- 2 メニューの[Windowsの終了]をクリックする。
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。
- 3 「再起動する」をクリックして選び、つぎに[OK]をクリックする。
「しばらくお待ちください」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

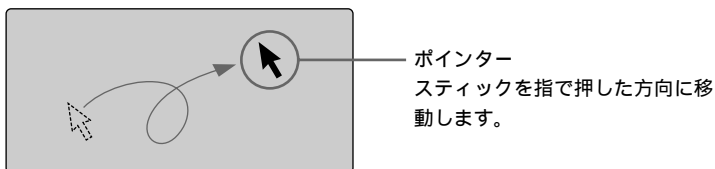
ACアダプターを持ち運ぶときは

コードは、ACアダプターの側面に巻きつけると邪魔になりません。



ポインティング・デバイスを使う

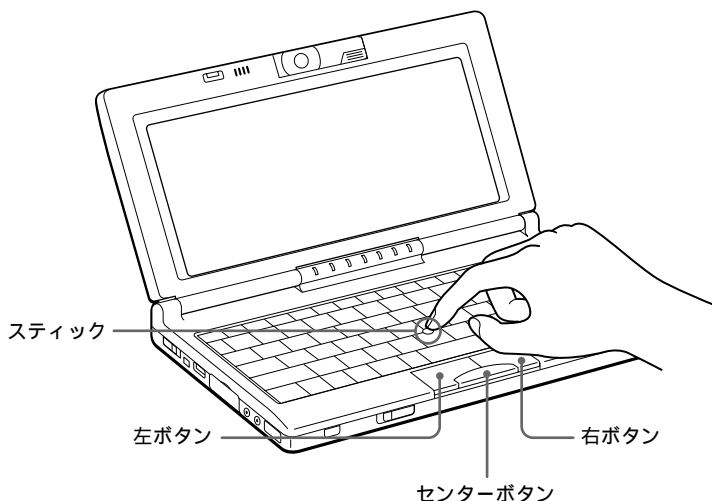
スティックを指で軽く押すと、画面上のポインターは押した方向に移動します。スティックを押す力(圧力)によって動く速度を調整できます。スティックを強く押すとポインターは速く動きます。



ご注意

ポインターが自然に動くことがまれにありますが、故障ではありません。しばらくポインティング・デバイスから指を離していればポインターは止まります。

ポインターを目的の位置まで動かして左ボタンまたは右ボタンを押すだけで、メニューを選んだり、さまざまな命令をコンピューターに伝えたりすることができます。



クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、キーボードの手前にある左ボタンを1回押します。

[OK]や[キャンセル]などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

ダブルクリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。

ワードプロセッサや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。

ドラッグする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、スティックを押し、希望の位置でボタンを離します。

ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

右クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。

押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

スクロールする

センターボタンを押しながらスティックを指で押します。アプリケーション上のスクロールバーを上下左右に移動できます。

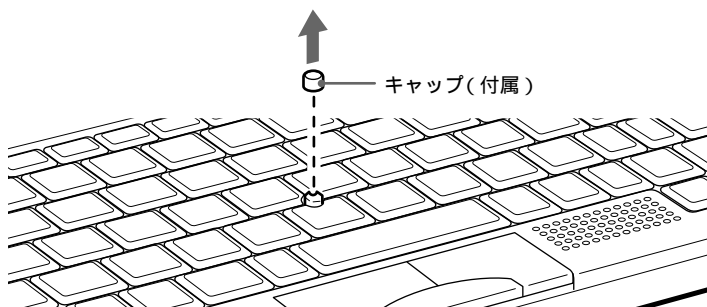
ご注意

スクロール機能を使うには、アプリケーション側の対応が必要です。対応していないアプリケーションではこの機能は使えません。



上記は工場出荷時の設定です。設定を変更したり、ポインティング・デバイスをより便利に使うには、オンラインマニュアルの「ポインティング・デバイスの設定を変更する」をご覧ください。

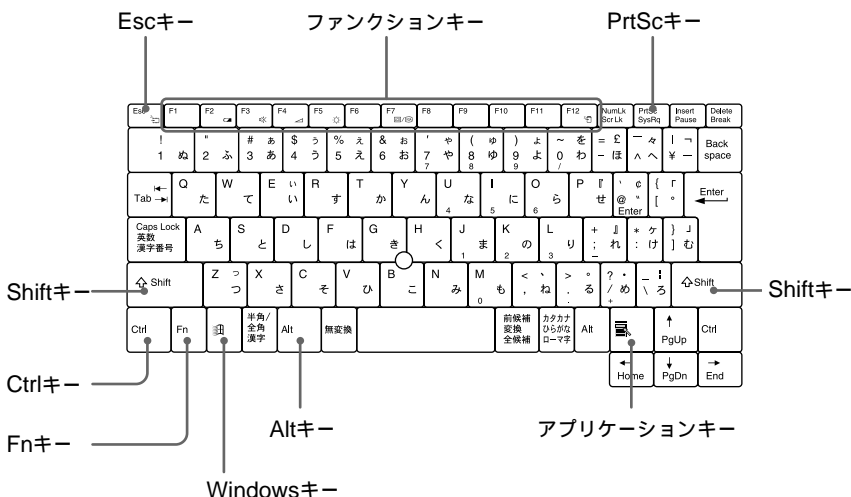
スティックのキャップを交換するには
スティックの先についているキャップは着脱式です。付属の予備キャップと交換することができます。



キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(35ページ)をご覧ください。



なまえ

機能



ファンクションキー

使用するソフトウェアによって働きが異なります。

Ctrl (コントロール) キー

文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

例) Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。
メニューから「保存する」を選ばずに、
ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt (オルト) キー	<p>文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。</p> <p>使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>例) Altキーを押しながら半角 / 全角キーを押す。押すたびに入力する文字を漢字または英数字に切り換えます。</p>
Shift (シフト) キー	<p>文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できません。</p>
Windows (ウィンドウズ) キー 	<p>Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。</p> <p>他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」(135ページ)をご覧ください。</p>
アプリケーションキー 	<p>右ボタンを押したときと同じ働きをします。</p>
Fn (エフエヌ) キー	<p>キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。</p> <p>ファンクションキー (F1からF12キー) などと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できません。</p> <p>「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(136ページ)をご覧ください。</p>
Esc (エスケープ) キー	<p>設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。</p>
PrtSc (プリントスクリーン) キー	<p>表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p>

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。キーボード上の各キーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」(33ページ)をご覧ください。

基本的な使いかた

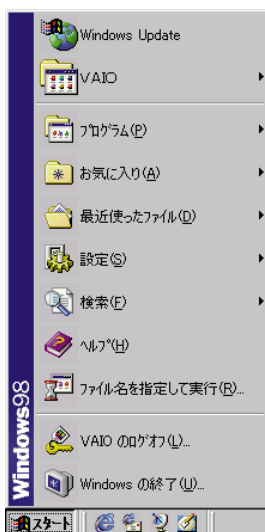
日本語入力を準備する

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

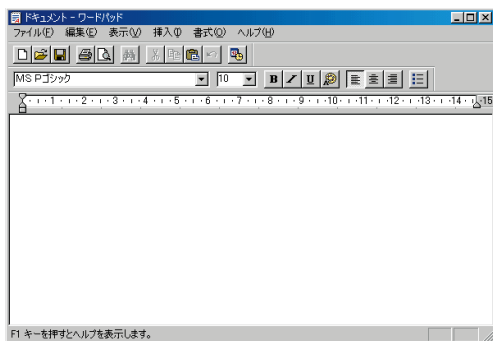
まず、ワードパッドを起動します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。
スタートメニューが表示されます。



次のページにつづく

- 2 [プログラム]をクリックして、ポインターを[アクセサリ]に合わせてから、[ワードパッド]をクリックする。
ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。

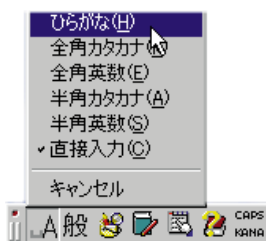


2 日本語入力を選ぶ

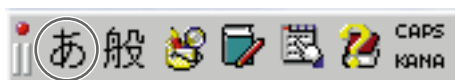
キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME98のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。




- 1 MS-IME98ツールバーの[A]をクリックする。
文字入力選択メニューが表示されます。



- 2 [ひらがな]をクリックする。
画面に表示されているツールバーの表示が[A]から[あ]に変わり、日本語を入力できるようになります。



ツールバーが表示されていないときは
 タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。
 ツールバーについて詳しくは、付属のWindows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。
 なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

MS-IME98ツールバーの[KANA]をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力



KANAの文字が
押された状態



[KANA]をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力



KANAの文字が
押されていない状態

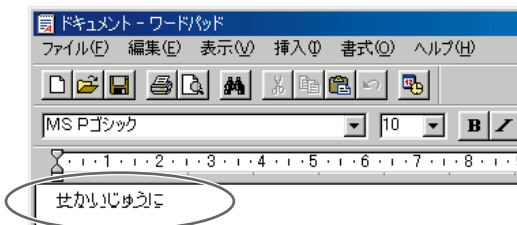
文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。

例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合

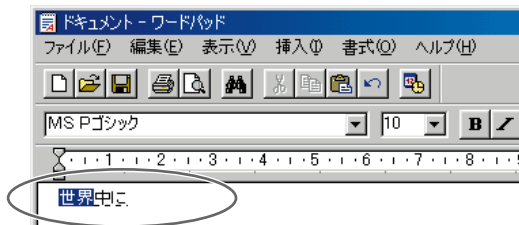
S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

- かな入力の場合

せ、か、い、し、`（濁点） ゆ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します） う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

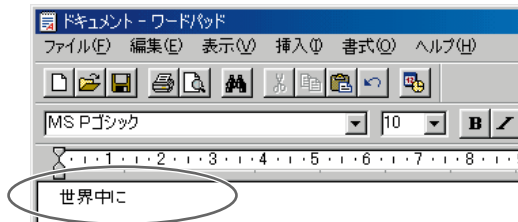
2 スペースキーを押す。



入力した読み当てはまる漢字が表示されます。

まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

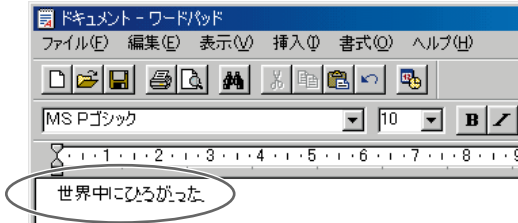
Backspaceキー：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Deleteキー：カーソルのある位置の1字を消します。

Escキー：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合

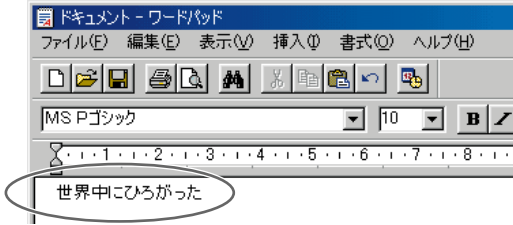
H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

- かな入力の場合

ひ、ろ、か、`（濁点）っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

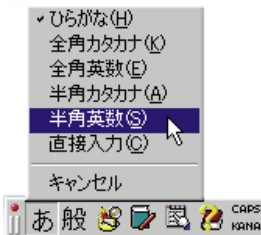
2 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

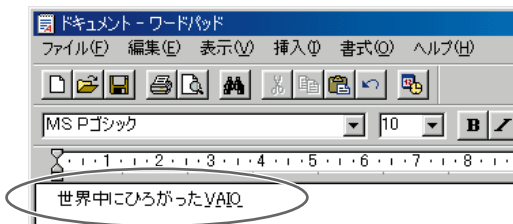
3 英字を入力する

1 MS-IME98のツールバーの[あ]をクリックして、[半角英数]を選ぶ。



ツールバーの表示が[A]になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



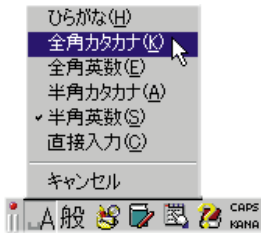
3 Enterキーを押す。



アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

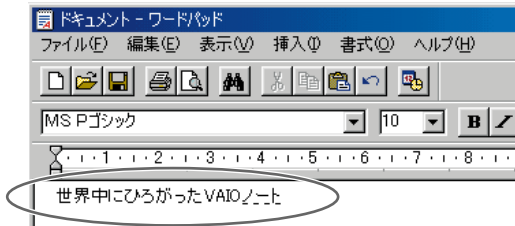
4 カタカナを入力する



- 1 MS-IME98のツールバーの[ㇿ]をクリックして、[全角カタカナ]を選ぶ。



ツールバーの表示が[ㇿ]になり、カタカナが入力できる状態になります。

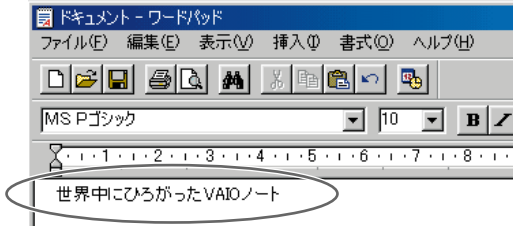
- 2 「ノート」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合
N、O、-（長音、キー）、T、Oの順にキーを押します。
- かな入力の場合
の、（長音、キー）と、の順にキーを押します。
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったVAIOノート」と入力できました。
キーボード上にはない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについては、付属のWindows 98のファーストステップガイドまたはMS-IME98のヘルプをご覧ください。

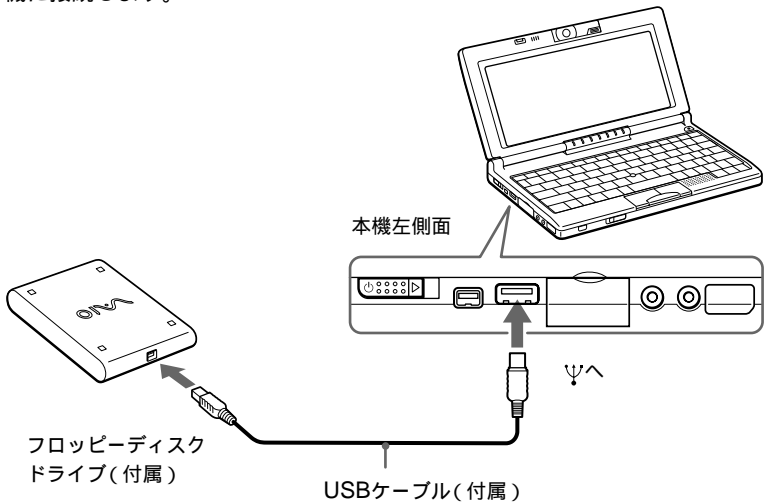
フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。

ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

付属のUSBケーブルを使って、フロッピーディスクドライブ(付属)を本機に接続します。



接続すると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。



フロッピーディスクドライブは本機の電源を入れたままで抜き差しできます。

ご注意

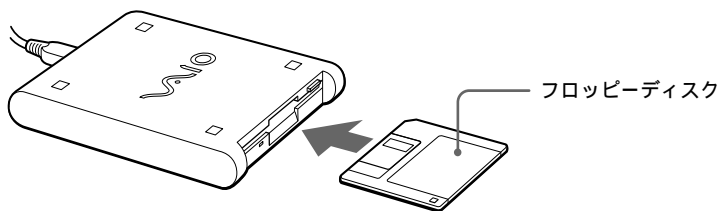
フロッピーディスクドライブをご使用中であっても、「PowerPanel」ソフトウェアのタイマー機能は働きます。使用中でも、省電力のため画面が暗くなり、システムサスペンドモードやシステムハイパーネーションモードに入ります。フロッピーディスクドライブをお使いのときは、ACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してください。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステムサスペンドモードやシステムハイパーネーションモードに入らないようになっています。システムサスペンドモードとシステムハイパーネーションモードについて詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの残量を確認する」をご覧ください。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

フロッピーディスクドライブを取りはずすには

フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、本機側のプラグからUSBケーブルを抜きます。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入になると便利です。初期化する必要がなくなります。

その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、次ページの「使用できるフロッピーディスク」をご覧ください。

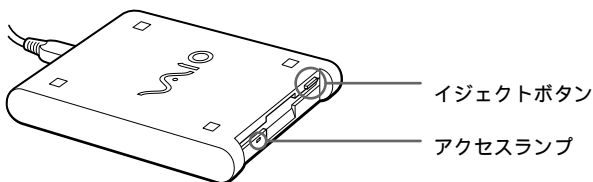
フロッピーディスクの初期化について詳しくは、Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないときはフロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOテクニカルレスポンスセンターにご連絡ください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

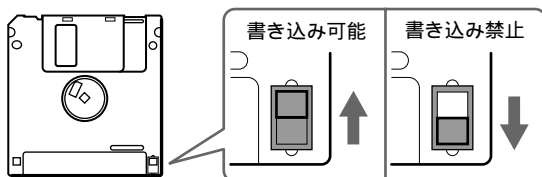
□ 書き込み可能

データを書き込みが可能な状態です。

□ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

3.5インチフロッピーディスクには、2HD(両面高密度)タイプと2DD(両面倍密度倍トラック)タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。

本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE(ドライブスペース)、DISKCOPYコマンドは実行不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンの フロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られています。一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用で作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

バッテリーで使う

充電したバッテリーパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。別売りの大容量タイプのバッテリーパック (PCGA-BP12) を取り付けることもできます。

ご注意

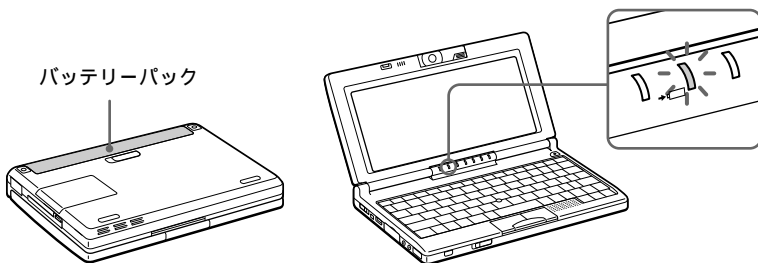
- 出荷時に装着されているバッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリーが消耗している状態になっていることがあります。
- 本機は、バッテリーの残量がわずかになると自動的にシステム ハイパーネーションモード*になるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。

長時間席を外されるときなどに、バッテリーが消耗した際、自動的にシステム ハイパーネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。

バッテリーでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモード、またはシステム ハイパーネーションモードにしてください。

*システム ハイパーネーションモードでは、作業中の状態がハードディスクに保存され、本機の電源が切れます。操作のしかたなど、詳しくはオンラインマニュアルの「省電力動作モードについて」をご覧ください。

バッテリーランプ



本機底面

バッテリーランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリー動作中
パワーランプと一緒に点滅	バッテリーの残量が少ない状態
2度連続点滅	バッテリー充電中
消灯	バッテリー切れ、またはAC電源で動作中

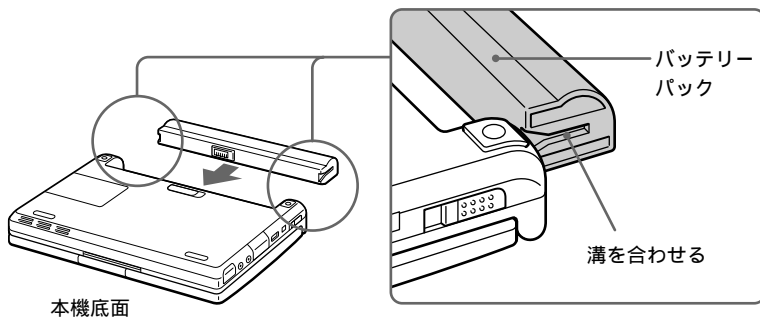


- 完全に充電したバッテリーで約1.5～3時間(標準タイプ)、3.5～6.5時間(大容量タイプ)使用できます。「Smart Capture」など内蔵カメラを使うソフトウェアを使うときは、約1～2.5時間(標準タイプ)、約2.5～5.5時間(大容量タイプ)使用できます。ただし、使用状況や設定などによりバッテリーを使用できる時間は異なります。バッテリーの使用時間について詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの残量を確認する」をご覧ください。
- AC電源につないでいるときは、バッテリーパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリーで長時間使うには
 付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機のバッテリーを最大限に長時間使用できるように、本機の動作状態を自動的に調節すること(スタミナモード)で、バッテリーの使用時間をのばすことができます。詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」をご覧ください。
- バッテリーの残量を確認するには
 付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリーの残量と予想使用時間を確認できます。詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの残量を確認する」をご覧ください。

バッテリーパックを取り付ける

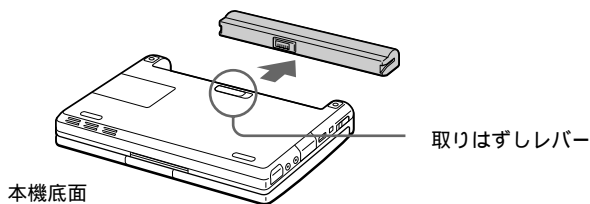
本機後面のバッテリー取り付け部にバッテリーパックを取り付けます。

本機後面とバッテリー両端の溝を合わせ、カチッと音がするまでバッテリーを差し込む。



バッテリーパックを取りはずすには

- 1 本機の電源を切る。
- 2 取りはずしレバーを横にずらして、バッテリーを取りはずす。



ご注意

- ACアダプターをつないでいない状態で、本機の電源を入れたままバッテリーを取りはずすと、作業中のデータが失われます。
- ACアダプターをつないでいない状態で、本機がシステム サスペンドモードのときにバッテリーを取りはずすと、保存されていないデータは失われます。

バッテリーを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使ってもバッテリーは充電されます。充電中は、バッテリーランプが2度連続で点滅します。付属の標準バッテリーの場合、バッテリーの残量が空の状態から充電されるまでに約1.5時間かかります(約85%充電、使用状況による)。バッテリーが約85%まで充電されると、バッテリーランプは消灯します。約85%まで充電されたバッテリーは、約1時間後に完全に充電されます。

インターネットを楽しむ

本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットを楽しむことができます。

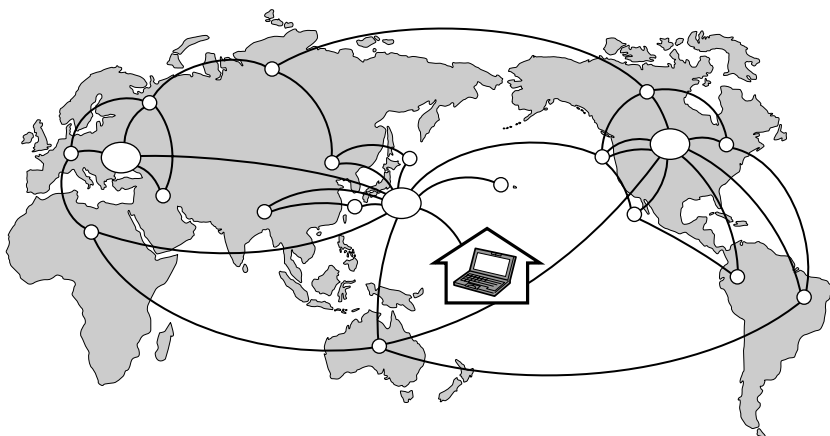
ここでは、インターネットとは何か、どうやってインターネットに接続するかについて説明します。

インターネットとは

世界中のコンピューターがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで、世界中の情報を入手したり、世界にむけて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、国内だけでなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

インターネットを利用して、以下のようなことができます。

- ホームページを見る
- 自分のホームページを作って公開する
- 電子メールをやり取りする
- オンラインショッピングをする



インターネットを始める

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話回線のように、ケーブルが繋がったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。

また、電話回線を通してインターネットにつなぐために、インターネットサービスプロバイダー(以下、「プロバイダー」と略します)という接続業者と契約する必要があります。

インターネットを始めるために必要なものは以下の通りです。

電話回線

電話回線には一般電話回線とISDN回線の2種類があります。本機では一般電話回線を使用します。

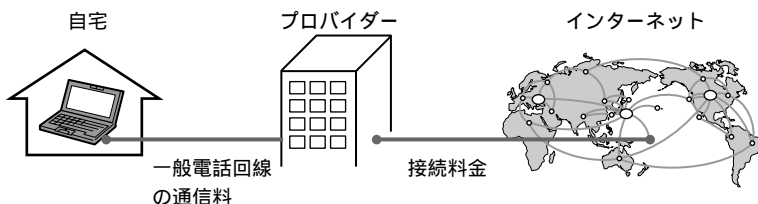
モデム

パソコンの情報を電話回線を通じてやり取りするために必要です。本機には内蔵されています。

プロバイダー

インターネットにつなぐために、プロバイダーと契約する必要があります。プロバイダーはインターネットと本機との間を仲介する役割を持っています。プロバイダーと契約すると、インターネットを使って、いろいろな情報を記述したホームページを簡単に見ることができます。また、「電子メールアドレス」という、あなたの住所のようなものが契約時に用意されます。電子メールアドレスは、電子メールを送受信するときの宛先になります。これらのサービスの他に、契約するプロバイダーによっていろいろなサービスがあります。

プロバイダーと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、プロバイダーには電話回線を使って接続するので、接続料金とは別に一般電話回線の通信料がかかります。



数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。

ご注意

- 契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できるプロバイダーをお探してください。
- 接続料金はプロバイダーにより異なります。

ソフトウェア

プロバイダーと契約することで、インターネットに接続することはできますが、実際に情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。本機には、インターネットを使ってホームページを見るためのソフトウェア(ウェブブラウザ)として、「Internet Explorer」と「Netscape Communicator」が付属しています。

ご注意

- 本機および付属ソフトウェアの設定によっては、本機の電源を切っている間でも、自動的にインターネットに接続することがあります。自動接続の場合、接続したあとに接続を自動的に終了しないことがあります。この場合、通話料と接続料金が多額になる可能性がありますので、ご注意ください。
- インターネットに接続している間は、電話をかけたり、受けたりできないことがあります。
- オンラインショッピングをするときなど、むやみにクレジットカードの番号を入力しないようにご注意ください。プライバシー情報がもれる可能性があります。
- 電子メールは完全な機密性があるわけではありません。電子メールに書く内容には注意してください。
- 電子メールに容量が大きいファイルを添付して送ることは、インターネットに大きな負担となりますのでご注意ください。多数の宛先に送信する場合も、充分ご注意ください。
- インターネット上には有害な内容のWebサイトもありますので、ご注意ください。

インターネットに接続する

以下の流れにしたがってインターネットに接続します。


準備1 電話回線につなぐ

本機を電話回線につなぎます。

詳しくは「電話回線につなぐ」(102ページ)をご覧ください。

準備2 インターネットサービスプロバイダーと契約する

本機にはソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の運営する、「So-net」に入会申し込みするソフトウェアがあらかじめインストールされています。

画面上の (So-net) アイコンに矢印を合わせてダブルクリックすることにより、契約手続きを開始することができます。

「So-netオンラインサインアップ」ソフトウェアの画面の指示にしたがって住所、氏名などを入力してください。

本機には、他にもさまざまなプロバイダーの入会ソフトウェアや入会案内が付属しています。

準備3 接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示にしたがってください。

すでに接続の契約をしているかたは、本機の画面上の[インターネットに接続]アイコンに矢印を合わせてダブルクリックします。

「インターネット接続ウィザード」の画面が表示されますので、画面の指示にしたがって必要事項を入力してください。

外出先でインターネットにアクセスする

ここでは、外出先でインターネットにアクセスする方法の概略を説明します。外出先でアクセスできるようにしておくと、外出先でどうしても電子メールを送信したいときや、電子メールを確認したいときに便利です。

外出先でインターネットにアクセスするには、4通りの方法があります。

- 公衆電話を使ってアナログ接続する
- 公衆電話を使ってISDN接続する
- デジタル携帯電話を使って接続する
- PHSを使って接続する

公衆電話を使ってアクセスする



デジタル携帯電話やPHSを使ってアクセスする



公衆電話を使ってアナログ接続する

本機はモデムを内蔵しているので、モジュージャックのある公衆電話に直接つなげます。

テレホンコードとモジュージャック付きの電話機さえあれば、どこからでもアクセスできますが、アナログ接続のため、使用する電話機によってはすぐに接続が切れてしまうことがあります。

- 1 本機と電話機をテレホンコードでつなく。
- 2 電話機の「データ通信」ボタンを押す。
- 3 テレホンカードを入れる。
- 4 通信用のソフトウェアを起動する。
これでインターネットにアクセスできます。

通信を終了するときは

次の2つの方法があります。使用するソフトウェアにあわせて使い分けてください。

- タスクバーの通信インジケータを右ボタンでクリックして、ショートカットメニューを表示させてから、[切断]を選ぶ。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

公衆電話を使ってISDN接続する

ISDNのTA(ターミナルアダプター)カードを本機に装着してモジュージャックのある公衆電話につなぐと、外出先でもISDN経由で接続できます。

通信速度が速く(最大64kbps)、安定した状態でアクセスできますが、市販のISDNのターミナルアダプターカードが必要です。

ご注意

アクセスしようとしているプロバイダーがISDNに対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。プロバイダーによっては通常のアナログ接続用とISDN接続用で、異なる電話番号を用意していることがあります。

デジタル携帯電話を使って接続する

本機をデジタル携帯電話に接続して、インターネットにアクセスできます。

デジタル携帯電話が使えるところではどこからでも、また移動中でもアクセスできますが、通信速度が遅く(9600 bps)、携帯電話にあわせた接続キットが必要です。

ご注意

接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。

PHSを使って接続する

本機をPHSに接続して、インターネットにアクセスできます。

通信速度が速く(最大32kbps)、PHSが使えるところではどこからでもアクセスできますが、PHSにあわせた接続キットが必要です。また、PIAFS方式で接続するときは、契約しているプロバイダーなどがPIAFSに対応している必要があります。

ご注意

- 接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。本機のPCカードスロットに直接装着できるPHSもあります。
- PIAFS方式でアクセスするときは、接続しようとしている電話番号がPIAFS方式に対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。

外出先で使うときのヒント

プログラブルパワーキーに電子メールソフトウェアの起動からメールの確認までを登録しておく、ボタン1つで電子メールの確認ができるので便利です。詳しくは、「ワンタッチで電子メールを確認する」(86ページ)をご覧ください。

静止画を取り込む

本機の内蔵カメラで静止画を撮ったり、i.LINKコネクタに接続したi.LINK対応機器から静止画を取り込んだりすることができます。静止画は電子メールに添付したり、「PictureGear Version 2.5 SE」ソフトウェアを使ってパノラマ画像を作ることができます。

内蔵カメラ (Motion Eye) を使う

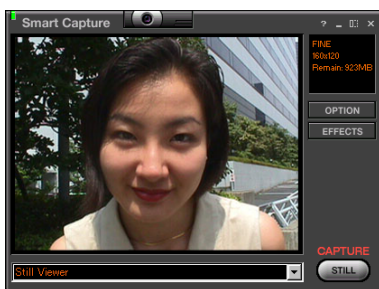
「Smart Capture」ソフトウェアを使って、内蔵カメラで静止画を撮ることができます。

ご注意

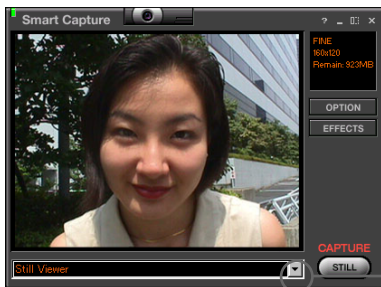
- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入/切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 「Smart Capture」は、内蔵カメラを使う他のソフトウェア (Sonicflow、CyberCode Finderなど) と同時に使用することができません。「Smart Capture」を使うときは、内蔵カメラを使用する他のソフトウェアを終了してください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして [VAIO] または [プログラム] にポインターを合わせ、[Smart Capture アプリケーション] を選び、[Smart Capture] をクリックする。

「Smart Capture」ソフトウェアのファインダーウィンドウが表示されます。

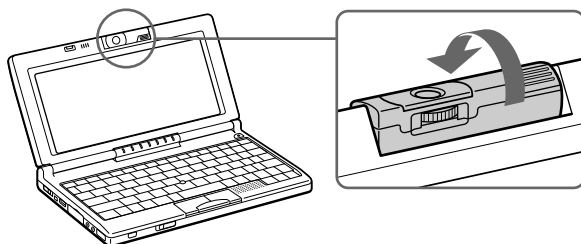


2 アプリケーション切り換えメニューで[Still Viewer]を選ぶ。

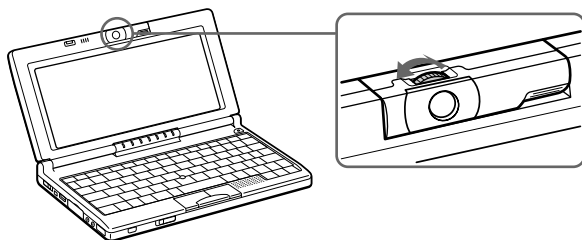


ここをクリックして選ぶ。

3 向かい側の被写体を撮るときは、内蔵カメラを外側に向ける。 自分を撮るときは内蔵カメラを手前に向けます(対面撮影)。



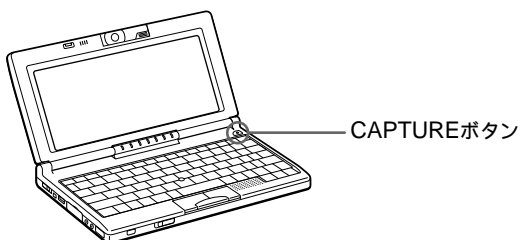
4 フォーカスリングでピントを合わせる。



5 CAPTUREボタンを軽く押す。

画像が一時的に静止します。

画像を選び直すときは、CAPTUREボタンを離してから選び、もう一度軽く押します。



6 CAPTUREボタンを押し込む。

「Still Viewer」ソフトウェアが自動的に起動し、静止画が表示されます。



取り込まれた静止画



- 対面撮影時、ファインダーウィンドウに映る画像は鏡のように映りますが、取り込まれた静止画は左右正しくなります。
- 「Smart Capture」ソフトウェアで取り込まれ、「Still Viewer」ソフトウェアで表示される静止画は、「Smart Capture」または「Still Viewer」を終了したり、本機の電源を切った後も、あらかじめ設定された「静止画像記録フォルダ」に保存されています。詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- セルフタイマーを使ったり、パノラマ画像を撮影するときに便利なパノラマアシスト機能を使うこともできます。詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

- 「Smart Capture」で取り込める静止画のサイズは、640×480、320×240、160×120、80×60、40×30の5種類です。ただし、640×480で取り込んだ静止画は480×240のサイズで取り込んだ画像を処理して作っているので、画像が粗くなることがあります。
- 640×480での静止画の取り込みは、システムに負荷がかかるため、撮影時のタイミングがずれることがあります。
- 取り込んだサイズがファインダーのサイズより極端に小さいとき(40×30など)、画像が粗く表示されることがあります。
- 動きの速い被写体をファインダーウィンドウに表示させると画面に水平方向に段差のようなものが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

「Smart Capture」ソフトウェアを終了するには

画面右上の **X** をクリックするか、ウィンドウの枠内で右クリックしてショートカットメニューを表示させ、[終了]をクリックします。

「Still Viewer」ソフトウェアを終了するには

画面右上の **X** をクリックするか、ウィンドウの枠内で右クリックしてショートカットメニューを表示させ、[終了]をクリックします。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

i.LINK対応機器で録画した映像、または撮影している映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込みます。i.LINK対応機器から静止画を取り込むには、付属の「DVgate still」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器と本機を接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」(108ページ)をご覧ください。

「DVgate still」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate still」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。

「DVgate still」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate still」の取扱説明書をご覧ください。

パノラマ画像を作る

本機の内蔵カメラで撮影した静止画を何枚かつなげてパノラマ画像を作ることができます。

内蔵カメラで静止画を撮影する

「Smart Capture」ソフトウェアのパノラマアシスト機能を使うと、パノラマ画像作成に使用できる静止画を撮影できます。詳しくは「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear Version 2.5 SE」ソフトウェアを使ってパノラマ画像を作ります。

「PictureGear Version 2.5 SE」ソフトウェアの使いかたについては、「PictureGear Version 2.5 SE」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

静止画を電子メールに添付する

内蔵カメラで撮影した静止画を電子メールに添付して送ることができます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]または[プログラム]にポインターを合わせ、[Smart Capture アプリケーション]を選び、[Still Viewer]をクリックする。

「Still Viewer」のウィンドウが表示されます。

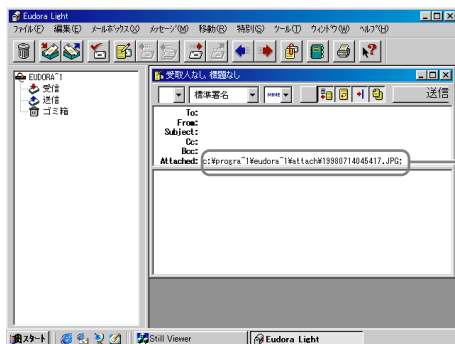


- 2 「Still Viewer」のウィンドウ上で電子メールに添付したい静止画を選ぶ。

◀または▶を押すか、スライダーを動かして静止画を選びます。

- 3 [MAIL]をクリックする。

選んだ静止画が添付された状態で電子メールソフトウェアが起動します。



選んだ静止画の
ディレクトリ

4 静止画が添付された電子メールを送付する。

電子メールの送信方法については、電子メールソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「Still Viewer」から静止画を電子メールで送付する場合は、MAPI (Messaging Application Programming Interface) 対応の電子メールソフトウェアを使用する必要があります。本機にはMAPIに対応した電子メールソフトウェアとして「EUDORA Light」や「Outlook Express」が付属しています。また、電子メールソフトウェアの各種設定を行う際に、MAPIを使用するように設定する必要があります。MAPIの設定方法について詳しくは、次ページの「電子メールソフトウェアのMAPIを設定するには」をご覧ください。

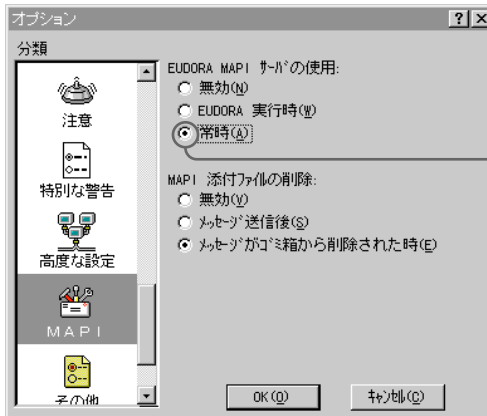
電子メールソフトウェアのMAPIを設定するには

ご注意

お使いになるメールアドレスなどの各種設定を行ってから、MAPIを設定してください。

「EUDORA Light」を使うとき(工場出荷時の設定)

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]にポインターを合わせ、[EUDORA Light3.0-J]を選び、[MAPIインストーラ]をクリックする。
「EUDORA Pro MAPIインストーラ」画面が表示されます。
- 2 [EUDORA MAPIサーバを登録]をクリックしてから、[閉じる]をクリックする。
- 3 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]にポインターを合わせ、[EUDORA Light 3.0-J]を選び、[EUDORA Light]をクリックする。
「EUDORA Light」ソフトウェアが起動します。
- 4 [ツール]メニューから[オプション]を選ぶ。
「オプション」画面が表示されます。
- 5 左側の[分類]をスクロールし、[MAPI]をクリックする。
- 6 「EUDORA MAPI サーバの使用:」の[常時]ラジオボタンをクリックする。



- 7 [OK]をクリックする。

「Outlook Express」を使うとき

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]にポインターを合わせ、[Internet Explorer]を選び、[Outlook Express]をクリックする。

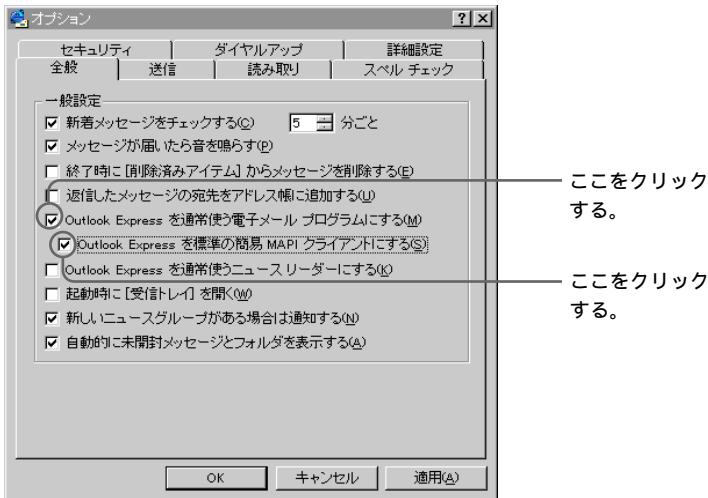
「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。

- 2 [ツール]メニューから[オプション]をクリックする。

「オプション」画面が表示されます。

- 3 [全般]タブをクリックする。

- 4 [Outlook Expressを通常使う電子メールプログラムにする]チェックボックスおよび[Outlook Expressを標準の簡易MAPIクライアントにする]チェックボックスをクリックする。



- 5 確認画面が表示されたら、[はい]をクリックする。

- 6 「オプション」画面の[OK]をクリックする

- 7 「Outlook Express」ソフトウェアを終了する。

- 8 Windows 98を再起動する。

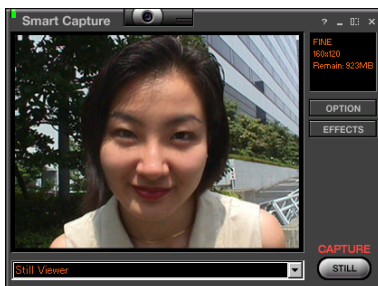
動画を取り込む

本機の内蔵カメラで動画を取り込むことができます。取り込んだ動画は本機で再生したり、電子メールに添付したりすることができます。

ご注意

- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入/切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 外出先などでバッテリーを使って本機を動作させ、動画を取り込むときは「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときは映像のコマ落ちが発生したり、音声途切れたりすることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」をご覧ください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]または[プログラム]にポインターを合わせ、[Smart Capture アプリケーション]を選び、[Smart Capture]をクリックする。
「Smart Capture」ソフトウェアのファインダーウィンドウが表示されます。

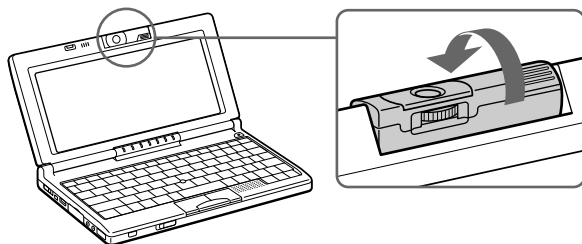


- 2 アプリケーション切り換えメニューで[Movie Player]を選ぶ。

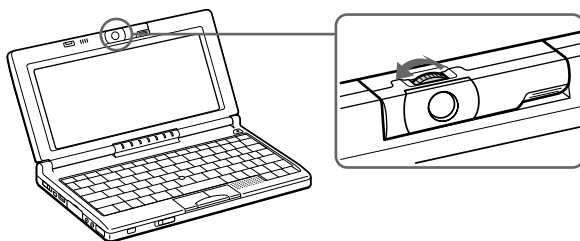


ここをクリックして選ぶ。

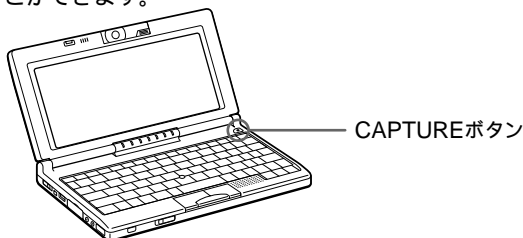
- 3** 向かい側の被写体を撮るときは、内蔵カメラを外側に向ける。
自分を撮るときは内蔵カメラを手前に向けます(対面撮影)。



- 4** フォーカスリングでピントを合わせる。



- 5** CAPTUREボタンを押し続ける。
CAPTUREボタンを押している間、最大60秒間の動画を取り込むことができます。



- 6** CAPTUREボタンを離す。
「Movie Player」ソフトウェアが自動的に起動し、動画が表示されます。





- 対面撮影時、ファインダーウィンドウに映る画像は鏡のように映りますが、取り込まれた動画は左右正しくなります。
- エフェクトをかけながら動画を取り込むこともできます。詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 「Smart Capture」ソフトウェアで取り込まれる動画のフォーマットは、次のようになります。

非圧縮時

ビデオ形式：160×120、24ビット、最大10フレーム/秒

オーディオ形式：PCM、11,025kHz、8ビット、モノラル

圧縮時

ビデオ形式：VDOWave SV-512、160×112、24ビット、最大10フレーム/秒

オーディオ形式：GSM 6.10、11,025kHz、モノラル

ご注意

動きの速い被写体をファインダーウィンドウに表示させると画面に水平方向に段差のようなものが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

取り込んだ動画を見るには

取り込んだ動画は「Movie Player」ソフトウェアで再生できます。

▶をクリックすると、取り込んだ動画が再生されます。再生を一時停止するには■を、停止するには■をクリックします。

「Smart Capture」ソフトウェアを終了するには

画面右上の をクリックするか、ウィンドウの枠内で右クリックしてショートカットメニューを表示させ、[終了]をクリックします。

「Movie Player」ソフトウェアを終了するには

画面右上の をクリックするか、ウィンドウの枠内で右クリックしてショートカットメニューを表示させ、[終了]をクリックします。

動画を電子メールに添付する

内蔵カメラで撮影した動画を電子メールに添付して送ることができます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]または[プログラム]にポインターを合わせ、[Smart Capture アプリケーション]を選び、[Movie Player]をクリックする。

「Movie Player」のウィンドウが表示されます。



- 2 [MAIL]をクリックする。

「画像圧縮詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。



- 3 圧縮の設定を行う。



スライダーを動かし、圧縮率を選ぶ。

4 [圧縮の開始] をクリックする。

動画データの圧縮が始まり、進行状況が表示されます。

圧縮が終わると、圧縮された動画が添付された状態で電子メールソフトウェアが起動します。

5 電子メールを送信する。

電子メールの送信方法については、電子メールソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「Movie Player」から圧縮した動画を電子メールで送付する場合は、MAPI (Messaging Application Programming Interface) 対応の電子メールソフトウェアを使用する必要があります。本機にはMAPIに対応した電子メールソフトウェアとして「EUDORA Light」や「Outlook Express」が付属しています。また、電子メールソフトウェアの各種設定を行う際に、MAPIを使用するように設定する必要があります。MAPIの設定方法について詳しくは、「電子メールソフトウェアのMAPIを設定するには」(65ページ)をご覧ください。

ご注意

- 電子メールにファイルを添付する際は、接続するネットワークや送付先に負担をかけないよう容量にご注意ください。特に、一度に複数の宛先への送信時には、充分ご注意ください。
- 「Movie Player」ソフトウェアで圧縮された動画の再生には専用デコーダーソフトウェアがインストールされたWindows 95またはWindows 98が動作するコンピューターが必要です。デコーダーソフトウェアインストーラーは、以下のFTPサーバー<ftp://ftp.vdo.co.jp/pub/vdo/Decoder/VDODecode30.exe> から取得できます。また、本機に付属のインストーラーを電子メールに添付して相手先に送ることもできます。

本機以外のコンピューターで再生する場合、あらかじめ、再生するコンピューター側で上記のインストーラーによりデコーダーソフトウェアのインストールが行われていることをご確認の上ご利用ください。

情報をメモして活用する

本機のメモ機能について

本機には、情報を気軽に画像や音声でメモをとって活用するために、次の2種類のソフトウェアを付属しています。

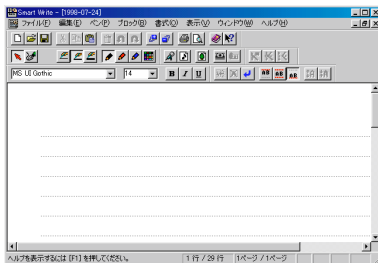
- Smart Write : 文字、画像、音声でメモをとるときに便利です。(72ページ)
- Smart Label : 音声と画像でメモをとるときに便利です。(76ページ)

文字でメモをとる(Smart Write)

ちょっとしたメモをとりたいときなどに便利です。



「Smart Write」ソフトウェアを使いこなすために、「Smart Write」のヘルプもあわせてご覧ください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[VAIO]にポインターを合わせ、[ステーションナリ]を選び、[Smart Write]をクリックする。
「Smart Write」ソフトウェアが起動します。
- 2 キーボードを使って文字を入力する。




画像でメモをとるには

画像(ビットマップファイル)を文字や音声と一緒にメモできます。

- 1  をクリックする。
「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。
- 2 被写体にカメラを向けて  をクリックするか、CAPTUREボタンを押す。
画像が挿入されます。

音声でメモをとるには

音声を文字や画像と一緒にメモできます。

- 1  をクリックする。
「録音」画面が表示されます。
- 2 [録音] をクリックしてマイクに向かって話す。
録音が始まります。
- 3 [録音終了] をクリックして録音を停止する。
- 4 [OK] をクリックする。
音声が入力されます。

文字、音声メモ、画像メモを消すには

BackspaceキーまたはDeleteキーを押します。

「Smart Write」を終了するには

[ファイル]メニューから[アプリケーションの終了]を選びます。

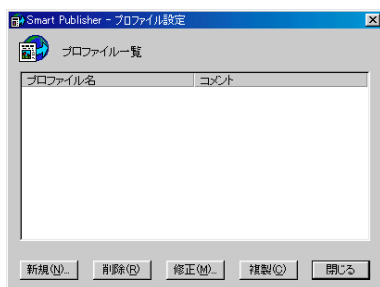
作成したデータをインターネットに送信する (Smart Publisher)

「Smart Write」ソフトウェアで作成したデータを簡単にインターネットに送信することができます。

インターネットに送信する前にインターネットに接続している必要があります。インターネットへの接続については、「インターネット楽しむ」(51ページ)をご覧ください。

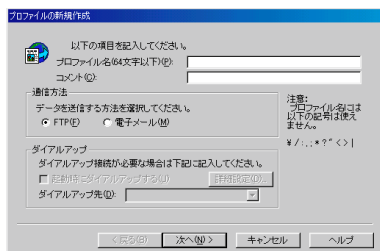
- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[VAIO]にポインターを合わせ、[ステーションリ]を選び、[Smart Publisher]をクリックする。

「Smart Publisher」が起動し、「プロファイル設定」画面が表示されます。

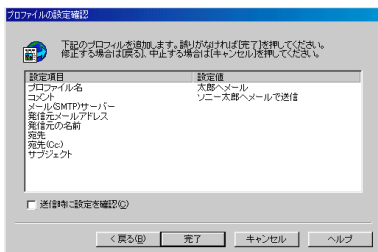


- 2 [新規]をクリックする。

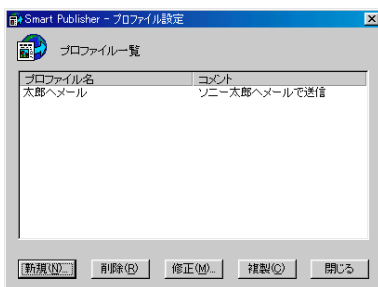
「プロファイルの新規作成」画面が表示されます。



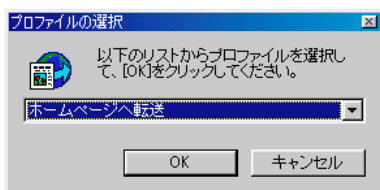
- 3** 必要な情報を入力し、[次へ]をクリックする。
 プロファイル名、コメントを入力し、データ通信方法をFTPと電子メールから選びます。
 データ送信の際にダイヤルアップ接続が必要な場合には、接続先を選びます。
 [次へ]をクリックすると、通信方法で選んだ方法の設定画面が表示されます。
- 4** 必要な情報を入力し、[次へ]をクリックする。
 引き続き画面の指示に従って操作します。前の画面を見るには[< 戻る]をクリックします。最後に「プロファイルの設定確認」画面が表示されます。



- 5** [完了]をクリックする。
 プロファイル一覧に作成したプロファイルが表示されます。



- 6 「Smart Write」ソフトウェアを起動し、「ファイル」メニューから「インターネットに送信」「選択して送信の実行」を選ぶ。「Smart Publisher」ソフトウェアが起動します。



- 7 プロファイルを選んで、[OK]をクリックする。
選んだプロファイルに従い、送信されます。


「Smart Publisher」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Publisher」のヘルプをご覧ください。


音声でメモをとる (Smart Label)

「Smart Label」ソフトウェアを使うと、電話中にとっさに番号をメモしたいというときなど、相手の言う電話番号を本機の前で復唱するだけで簡単にメモがとれます。


「Smart Label」ソフトウェアで作成したメモ、録音したメモ、内蔵カメラから取り込んだ画像は自動的に「ラベル」として、デスクトップに貼りつけられます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[VAIO]にポインターを合わせ、[ステーションナリ]を選び、[Smart Label]をクリックする。

「Smart Label」ソフトウェアが起動し、画面右下にが表示されま
す。




- 2** 画面右下のをダブルクリックし、本機のマイクに向かって話
す。
ラベルが表示され、音声録音されます。設定により、最大で60秒間
の録音ができます。




- 3** 録音を終了するときは、をクリックする。
録音の終了したラベルは、デスクトップの好きな場所に貼り付けるこ
とができます。



メモを再生するには

- ラベルをクリックし、をクリックします。
録音したメモが再生されます。再生を一時停止するにはを、停止するに
はをクリックします。

内蔵カメラから画像を取り込むには

- 1** 画面右下のを右クリックし、メニューの「カメラ表示」をク
リックする。
2 被写体にカメラを向け、CAPTUREボタンを押す。
新しいラベルが作成され、画像が取り込まれます。

内蔵カメラから取り込んだ画像を標準の大きさで表示するには

内蔵カメラから取り込んだ画像は、ラベルの大きさに合わせて縮小して表示されます。標準の大きさで表示するには、表示するラベルを右クリックしてポップアップメニューから「ビットマップ」を選び、さらにサブメニューから「標準の大きさで表示」を選びます。

メモを消すには

消したいラベルを右ボタンでクリックし、[ラベル削除]をクリックします。

ラベルが消去されます。



「Smart Label」のラベルに文字や画像データを追加したりすることもできます。詳しくは「Smart Label」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

好みのソフトウェアを自動的に起動する

内蔵カメラ (Motion Eye) でソフトウェアを起動する

付属のCyberCodeシールを使って、よく使うソフトウェアやホームページなどを記憶させておくと、記憶させたCyberCodeシールを内蔵のカメラにかざすだけで起動させることができます。

ご注意

- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入/切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 「CyberCode Finder」は、内蔵カメラを使う他のソフトウェア (Sonicflow、Smart Capture など) と同時に使用することができません。「CyberCode Finder」を使うときは、内蔵カメラを使用する他のソフトウェアを終了してください。
- 外出先などでバッテリーを使って本機で「CyberCode Finder」を動作させるときは、「Power Panel」ソフトウェアでACプロファイルがカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときはCyberCodeを認識しづらくなったり動作が不安定になることがあります。「Power Panel」ソフトウェアについて詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」をご覧ください。

CyberCodeにソフトウェアやホームページを記憶させるには

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[VAIO] にポインターを合わせ、[CyberCode Finder] をクリックする。
「CyberCode Finder」ソフトウェアが起動します。

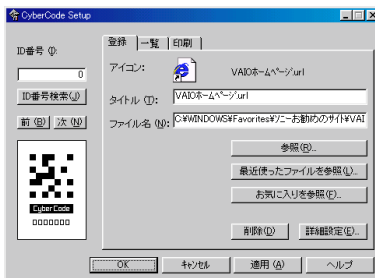


- 2** 何も登録していないCyberCodeシールを内蔵カメラにかざす。
「CyberCode Setup」ソフトウェアが起動し、内蔵カメラにかざしたCyberCodeが表示されます。



- 3** 「タイトル」入力欄にタイトルを、「ファイル名」入力欄に登録する
ファイル名をそれぞれ入力したあと、[OK]または[適用]をク
リックする。

表示されたCyberCodeに、選んだファイルが登録されます。




[最近使ったファイルを参照] をクリックして、「最近使ったファイル」
リストからファイルを選ぶこともできます。

CyberCodeに登録したソフトウェアやホームページな
どを起動するには

「CyberCode Finder」を起動して、登録したCyberCodeシールを内蔵
カメラにかざします。

CyberCodeシールの登録内容を変更したり、取り消す
には

Ctrlキーを押しながら、登録済みCyberCodeシールを内蔵カメラにかざ
します。「CyberCode Setup」が起動して、登録内容の変更や削除を行
うことができます。

 CyberCodeシールを印刷するには

ソニーカラービデオプリンターCVP-P77を使うと、CyberCodeシールを印刷できます。

「CyberCode Setup」の「印刷」タブで印刷したいモードをチェックし、[印刷]をクリックしてCyberCodeシールを印刷します。

ソニーカラービデオプリンターCVP-P77の取扱説明書もあわせてご覧ください。



CyberCodeのID番号は0～1048575番まで使用できます。

CyberCodeメッセージカードを使うには

付属のCyberCodeメッセージカードを使って好みの画像や音声ファイルを楽しむことができます。「CyberCode Finder」ソフトウェアのヘルプもあわせてご覧ください。

- 1 「CyberCode Finder」ソフトウェアを起動する。
- 2 CyberCodeメッセージカードを内蔵カメラにまっすぐ向けて、ファインダーに映す。
映しつづけると、「ピッ」と音がして、メッセージが再生されます。
- 3 ファインダーに表示される指示にしたがって操作する。



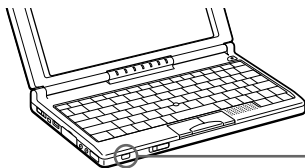
CyberCodeのメッセージカードは「メッセージカードセットアップ」ソフトウェアを使って登録や詳細設定を行うことができます。

ご注意

- CyberCodeが斜めになったり、ぶれたりしないように、しっかり固定して持ち、まっすぐ内蔵カメラに向けて映してください。
- CyberCodeが内蔵カメラから遠すぎたり、内蔵カメラのピントがずれたりすると、登録したソフトウェアやホームページなどを起動させることができません。適度な距離(10 cm程度)において、内蔵カメラのフォーカスリングを回してピントを合わせて内蔵カメラに映してください。ピントの合わせかたについては、59ページをご覧ください。
- 逆光や反射でCyberCodeがファインダーに正しく映らない場合は、起動しにくいことがあります。
- 内蔵カメラを使う他のソフトウェア(Smart CaptureやSonicflowなど)をCyberCodeに登録し、起動させることはできません。


ワンタッチでソフトウェアを起動する

「PPK Setup」ソフトウェアを使うことにより、プログラマブルパワーキーを押すだけで、好みのソフトウェアやスクリプトファイルを起動できます。



プログラマブルパワーキー

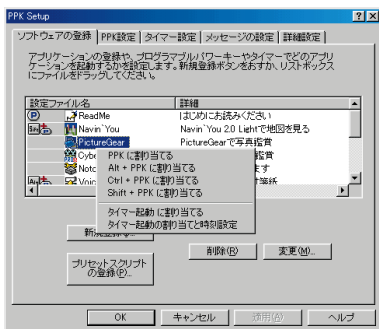
ワンタッチで好みのソフトウェアを起動できるので、すぐに起動したいソフトウェアを割り当てておくと便利です。ここでは初期設定で用意されているソフトウェアを選ぶ手順について説明します。

- 1 画面右下の  をダブルクリックする。


「PPK Setup」が表示されます。

- 2 「ソフトウェアの登録」から好みのソフトウェアを選び、右ボタンをクリックする。

設定メニューが表示されます。



- 3 [PPKに割り当てる] をクリックする。

手順2で選んだソフトウェアに  が表示されます。

- 4 [OK] をクリックする。

これで設定は終わりです。本機前面のプログラマブルパワーキーを押すと、設定したソフトウェアが起動します。

「設定ファイル名」に入っていないソフトウェアを指定したいときは [新規登録] をクリックしてから、好みのソフトウェアを指定します。詳しくは、「PPK Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

初期設定では、液晶ディスプレイパネルを閉じているときにプログラマブルパワーキーを押しても、指定したソフトウェアは起動しません。

ディスプレイパネルを閉じているときでも起動したいときは、「PPK Setup」画面の[詳細設定]タブをクリックし、「液晶パネルが閉じていてもプログラマブルパワーキーを使用する」をチェックします。

本機をかばんに入れて持ち運んでいるときなどに、誤ってプログラマブルパワーキーを押してしまい、ソフトウェアが起動してしまうこともありますので、ご注意ください。

プログラマブルパワーキーと他のキーとの組み合わせについて
プログラマブルパワーキーと他のキーを組み合わせることで、好みのソフトウェアを起動することもできます。

前ページの手順2で表示される「設定メニュー」で、組み合わせを選びます。

□「PPKに割り当てる」

本機前面のプログラマブルパワーキーを押すだけで、好みのソフトウェアが起動します。

本機の電源が入っていないときでも、キーを押すと自動的に本機の電源が入り、好みのソフトウェアが起動します。

□「Alt+PPKで実行する」

本機の電源が入っているときに、Altキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

□「Ctrl+PPKで実行する」

本機の電源が入っているときに、Ctrlキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

□「Shift+PPKで実行する」



本機の電源が入っているときに、Shiftキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

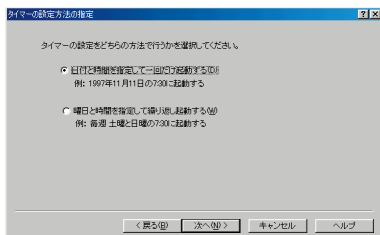
内蔵タイマーでソフトウェアを起動する

内蔵タイマーを使うと、本機が①通常の動作状態のとき、②システム サスペンドモードのときに、好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。

プログラマブルパワーキーにソフトウェアを割り当てるときと同様に、スクリプトファイルを好みの時刻に実行することもできます。

システム サスペンドモードについて詳しくは、オンラインヘルプの「省電力動作モードについて」をご覧ください。

- 1 画面右下のをダブルクリックする。
「PPK Setup」が表示されます。
- 2 「ソフトウェアの登録」からタイマーで起動したいソフトウェアを選び、右ボタンをクリックする。
- 3 [タイマー起動に割り当てる]をクリックする。
手順2で選んだソフトウェアにが表示されます。
- 4 [タイマー設定]タブをクリックする。
- 5 [設定]をクリックする。
「タイマーの設定方法の指定」が表示されます。




「日付と時間を指定して一回だけ起動する」を選ぶと設定した1回のみ、「曜日と時間を指定して繰り返し起動する」を選ぶと、毎週決まった時間にタイマーが起動します。

- 6 [次へ>]をクリックする。
タイマー起動時刻を設定します。
手順5で「日付と時間を指定して一回だけ起動する」を選んだときは日付と時刻を、「曜日と時間を指定して繰り返し起動する」を選んだときは曜日と時刻を設定します。

7 [次へ>]をクリックする。

8 [完了]をクリックする。

これで設定は終わりです。タイマー設定をすると \square (インフォメーション)ランプが点灯します。

 自動的にソフトウェアを起動したあと、本機を一定時間後に省電力動作モードにすることもできます

上記の手順7で[時間による制御]をクリックし、処理を中断するまでの時間などを設定します。

ご注意

- 初期設定では、液晶ディスプレイパネルを閉じているときは、タイマーを設定していても指定したソフトウェアは起動しません。
ディスプレイパネルを閉じているときでも起動したいときは、「PPK Setup」画面の[詳細設定]タブをクリックし、「液晶パネルが閉じていてもタイマー時刻に起動する」をチェックします。
- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。

\square (インフォメーション)ランプについて

点灯 タイマーが設定されている

点滅 タイマー起動後、プリセットスクリプトの中で処理が正常に終了した状態。液晶ディスプレイを開閉したり、本機の電源を切ったりすると点滅が止まり、タイマーの設定内容に応じて点灯状態になったり、消灯状態になります。

消灯 タイマーが設定されていない、またはタイマー設定が無効な状態(電源オフ、システムハイパーネーションモード)


ワンタッチで電子メールを確認する

プログラマブルパワーキーの便利な使いかたの例として、ワンタッチで電子メールを確認できるよう設定してみましょう。プログラマブルパワーキーを押すだけで、電子メールを確認できます。

ご注意

この機能を使う前に、以下の点を確認してください。

- インターネットに接続するための接続会社と契約は済んでいますか。
- 電子メールのアカウントを取得していますか。
- Windows 98の「ダイヤルアップネットワークの設定」は済んでいますか。
- 「ダイヤルアップネットワークの設定」で、「パスワードを保存する」にチェックはついていますか。
- 電子メールソフトウェアの設定は済んでいますか。

1 画面右下のをダブルクリックする。

「PPK Setup」が表示されます。

2 [プリセットスクリプトの登録]をクリックする。

「プリセットスクリプトの設定」が表示されます。

以下の手順で設定します。

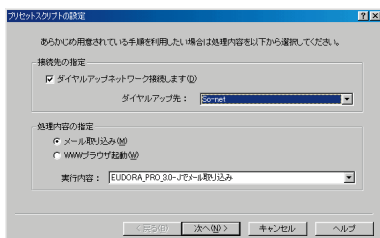
① [ダイヤルアップネットワーク接続する]をクリックし、ダイヤルアップ先を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定した、ダイヤルアップ先を選びます。

② [メール取り込み]をクリックし、実行内容を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、使用する電子メールソフトウェアを選びます。

記入例



- 3 [次へ>]をクリックする。
ファイル名やコメントを入力します。
ここで入力したファイル名とコメントは、「PPK Setup」画面に表示されます。
- 4 [完了]をクリックする。
- 5 手順4で設定したファイル名を、「アプリケーションの一覧」から選び、右ボタンをクリックする。
- 6 「ワンタッチでソフトウェアを起動する」(82ページ)の手順3と4を行う。
これで設定は終わりです。プログラマブルパワーキーを押すと、指定した電子メールソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。

PPK Setupソフトウェアの制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。

プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。また、タイマー起動するときは、一定時間後にシステム サスペンドモードやシステム ハイパーネーションモードへ移行するように設定しておくことをおすすめします。このように設定しておくことで、回線を正常に切断できないときでも、強制的に切断できます。ただし、内蔵モデムリングレジュームがオンになっている場合には、システム サスペンドモードになっても回線が切断されませんのでご注意ください。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook Express」などの、電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。

このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「PPK Setup」のダイヤルアップ機能(スクリプトなど)を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。

PPK Setupの簡易設定では、電子メールソフトウェアなどの起動前にダイヤルアップネットワークに自動的に接続します。そのため、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップできるときは、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップするように設定を変更するようおすすめします。

スクリプト実行中はパソコンの操作をしないでください

簡易設定によるメール取り込みには「ScriPlayer PRO32 Lite」で作成したスクリプトを使用しています。

これらのスクリプトを実行中にパソコンの操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

例えば...

外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

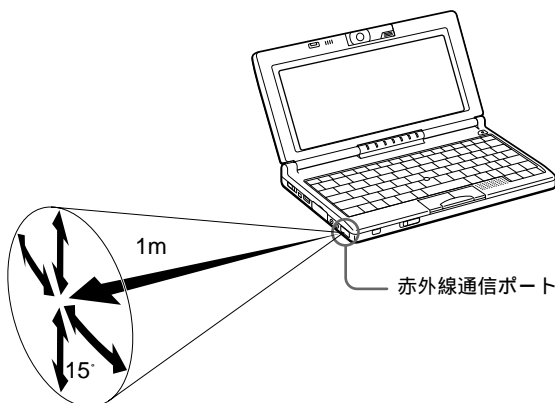
ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。

- 赤外線 (IrDA規格) を使ってやりとりする
- ネットワークを使ってやりとりする
- PCカードを使ってやりとりする

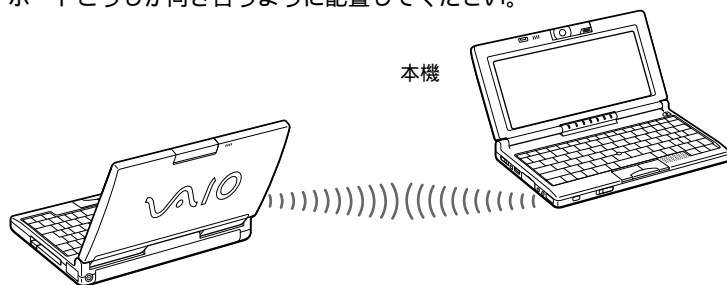
赤外線 (IrDA) でデータをやりとりする

本機左側面の赤外線通信ポートを使って、IrDA対応の赤外線通信ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつなぐずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けるうえに、ケーブルを使ったときに比べて短時間でデータをやりとりできます。

パソコンだけでなく、赤外線通信ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラ「サイパースhots」(DSC-F1/F2/F3)にもIrDA対応の赤外線通信ポートがついているため、本機と赤外線でデータをやりとりできます。

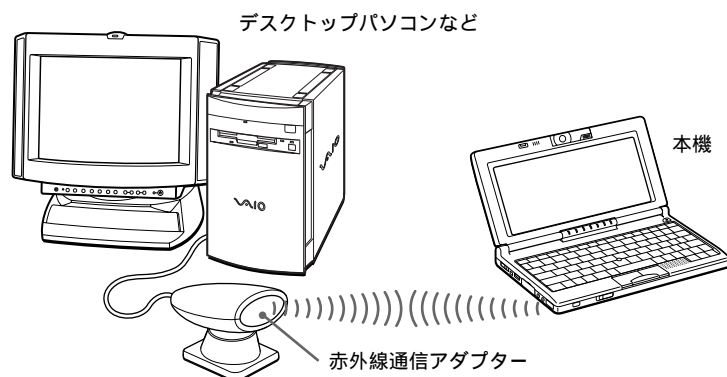


他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように赤外線ポートどうしが向き合うように配置してください。



赤外線通信ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線ですべてのデータをやりとりできるものもあります。

詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。



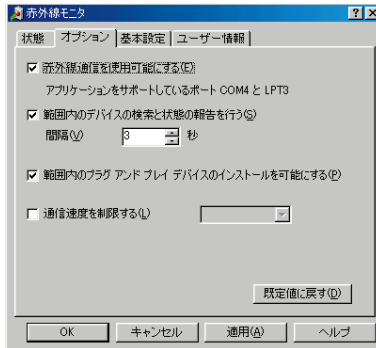
赤外線ですべてのデータをやりとりするには

実際にデータをやりとりするには、本機に付属のソフトウェアを使います。

- 「PictureGear Version 2.5 SE」: デジタルスチルカメラなどから画像データを取り込む。
- 「Intellisync for Windows」: パソコン間での文書などのデータをやりとりする。

「PictureGear Version 2.5 SE」をお使いになるときは
工場出荷時の設定では、赤外線データやりとりすることができません。
次の操作を行って、赤外線通信が使えるようにしてください。

- 1 [[スタート] ボタンをクリックして[設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。
- 2 [コントロールパネル] 中の [赤外線モニタ] をダブルクリックする。
- 3 [オプション] タブをクリックし、「赤外線通信を使用可能にする」をチェックする。



- 4 [OK] をクリックする。

「Intellisync for Windows」をお使いになるときは
以下の点にご注意ください。

- [赤外線モニタ] の設定が、「赤外線通信を使用可能にする」になっていると、他のコンピューターと赤外線接続できません。このようなときは、上記の手順3で「赤外線通信を可能にする」のチェックをはずし、[OK] をクリックしてから、「Intellisync for Windows」を起動してください。
- 「Intellisync for Windows」起動時に、赤外線モニターに「赤外線通信は使用不可になっています」と表示されていますが、「Intellisync for Windows」での赤外線通信は使用できますので、そのまま起動してください。

ご注意

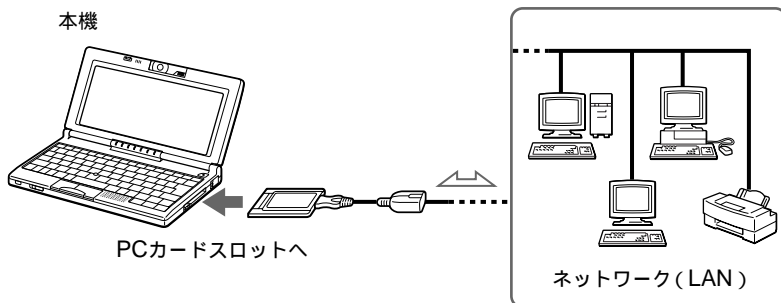
- 「PictureGear Version 2.5 SE」をお使いになるときは(91ページ)の手順3で「赤外線通信を使用可能にする」をチェックすると、一定時間ごとに通信相手を探すため、バッテリーの消耗が早まります。バッテリーの消耗を防ぐため、データのやりとりが終わったあとは、「赤外線通信を使用可能にする」のチェックをはずしておくことをおすすめします。
- タスクトレイの赤外線モニターアイコンを右クリックして、赤外線通信の設定を変更しないでください。「PictureGear Version 2.5 SE」をお使いになるときは(91ページ)の手順3で設定するか、タスクトレイの赤外線モニターアイコンをクリックし、赤外線モニターを起動して設定してください。
- 内蔵ハードディスク以外のデバイス(PCカードに接続したCD-ROM、ハードディスクなど)と赤外線通信で直接データをやりとりするときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してシステムサスペンドモードやシステムハイパーネーションモードに入らないようにしてください。大きなファイルをうまくやりとりできないことがあります。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステムサスペンドモードやシステムハイパーネーションモードに入らないようになっています。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。
 - 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
 - 赤外線通信ポートは真正面向き合うように配置する。
 - 赤外線通信ポート間に物を置かない。
 - 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。

ネットワーク(LAN)でデータをやりとりする

本機を職場などのネットワーク(LAN)に接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。

本機とネットワークをつなぐには、ネットワークPCカードが必要です。この場合、接続したいネットワークに合わせた種類のネットワークカードをお使いください。

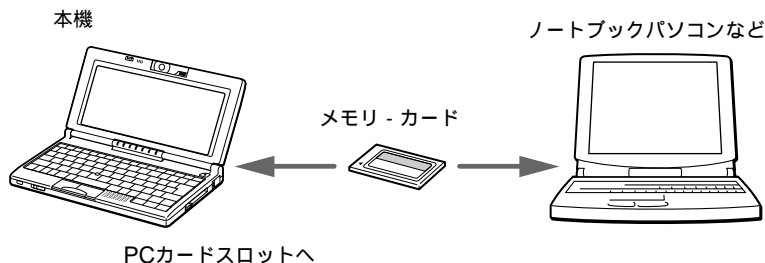
ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。



PCカードでデータをやりとりする

PCカードを使って、PCカードに対応した機器とデータをやりとりできます。PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」(117ページ)をご覧ください。

本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリーカードに保存して、データをやりとりできます。



内蔵カメラ (Motion Eye) を使って 音楽を楽しむ

「Sonicflow」ソフトウェアを使って内蔵カメラからの映像で自動的に音楽を生成したり、音楽をインタラクティブに操作して、リミックスを行うことができます。

「Sonicflow」の使いかたについて詳しくは、「Sonicflow」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

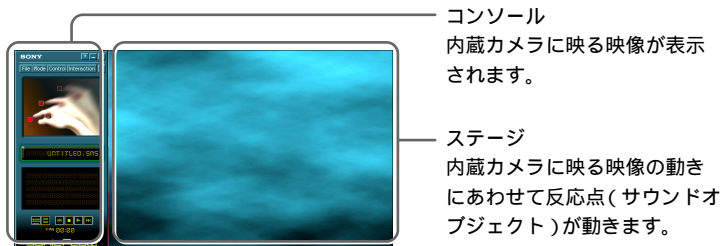
- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入 / 切にかかわらず、カメラを太陽に向けしないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 「Sonicflow」は、内蔵カメラを使う他のソフトウェア (Smart Capture、CyberCode Finder など) と同時に使用することができません。「Sonicflow」を使うときは、内蔵カメラを使用する他のソフトウェアを終了してください。
- 外出先などでバッテリーを使って本機を動作させ、「Sonicflow」で音楽を再生するときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだとき、音声が途切れて再生されることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」をご覧ください。

内蔵カメラからの映像で音楽を再生する

内蔵カメラに映る映像の動きに合わせて、音楽を再生することができます。ここでは、サンプルファイルを使って音楽を再生してみます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[VAIO]にポインターを合わせ、[Sonicflow]をクリックする。

「Sonicflow」ソフトウェアが起動し、コンソールとステージが表示されます。



- 2 コンソールの▶をクリックするか、[Control]メニューから[Play]をクリックする。

ステージ上のアイコンが動き出し音楽が流れます。

ステージ上のアイコンをサウンドオブジェクトと呼びます。

映像に反応させて音楽を再生するには

音楽が流れ出すと、ステージ上のサウンドオブジェクトが動き出します。内蔵カメラの前で「手を振る」などの動作をすると、サウンドオブジェクトが動き、動作にあわせてさまざまな音の組み合わせが楽しめます。

音楽のさまざまな変化を楽しむには

コンソールのパッドから音のバリエーションを選ぶことができます。音楽の再生中にコンソールのパッドをクリックすると、さまざまな音のバリエーションが楽しめます。

パッドを使うには[Mode]メニューから[Pad]を選び、「Pad Mode」にする必要があります。

オリジナルの音楽を作曲する

内蔵カメラに映る映像の動きに合わせて再生される音楽を作曲することができます。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[VAIO] にポインターを合わせ、[Sonicflow] をクリックする。
「Sonicflow」が起動し、コンソールとステージが表示されます。
- 2 [Mode] メニューから[Edit] を選ぶ。
コンソールが編集用のウィンドウになります。



- 3 サウンドオブジェクトを作成する。
「Sample」フォルダーの中にある、サウンドオブジェクトにしたいWAVEサウンドファイルを選び、ステージ上にドラッグアンドドロップします。
- 4 作成したサウンドオブジェクトを配置する。
サウンドオブジェクトはステージ上の好きなところにドラッグできます。
- 5 サウンドオブジェクトの動作を設定する。
サウンドオブジェクトを選択し、コンソールの中のメニューを用いることでサウンドオブジェクトにいろいろな設定をすることができます。
- 6 作曲中の曲を視聴する。
コンソールの▷をクリックするか、[Control]メニューから[Play]をクリックします。止めるには、コンソールの□をクリックするか、[Control]メニューから[Stop]をクリックします。
- 7 手順3～6を繰り返し、曲を完成させる。
- 8 作曲した音楽を保存する。
[File]メニューから[Save]をクリックすると、作曲した音楽を保存することができます。作曲した音楽は「.sms」という拡張子のファイルで保存されます。保存されるのは、サウンドオブジェクト、ステージの画像、サウンドパラメーターなどです。



保存した音楽は、[File]メニューから[Open]をクリックし、保存したファイル名を選ぶことで、いつでも読み出し、演奏させることができます。

音楽CD / ビデオCDを再生する

「Digital Media Park」ソフトウェアで音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。(一部ソフトウェアを除きます。)

本機で音楽CDなどを再生するには、別売りのCD-ROMドライブ(PCGA-CD5)が必要です。接続について詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」(106ページ)をご覧ください。

ご注意

別売りのCD-ROMドライブで音楽CDを再生しても、本機のスピーカーからは音は出ません。音楽CDを聞くには、ヘッドホンや外部スピーカーなどをCD-ROMドライブにつないでください。

「Digital Media Park」を使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Digital Media Park」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の[AV再生の設定]をダブルクリックする

「Digital Media Park」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示にしたがって操作する

画面の指示にしたがって必要な項目を設定します。

再生する

設定が終了すると、画面上部に「Digital Media Park」の中の「Media Bar」操作画面が表示されます。

「Digital Media Park」の使いかたについては、「Digital Media Park」の取扱説明書をご覧ください。



一度「Digital Media Park」ソフトウェアの再生のための設定が終了すると、[AV再生の設定]アイコンは表示されず、2回目以降はすぐに再生を楽しむことができます。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

□ 画像データを管理する

「PictureGear Version 2.5 SE」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データをまとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear Version 2.5 SE」の取扱説明書をご覧ください。

□ 仮想世界を散歩する

「さばり」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「公園」や「コースト」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット(会話)も楽しめます。使いかたについて詳しくは、「さばり」のオンラインマニュアルをご覧ください。

□ 地図を見る

「Navin' You Version 2.0 Lite」ソフトウェアを使います。

ハードディスクにプリインストールされている株式会社アルプス社製「プロアトラス」シリーズのほかに、ナビ研規格(S規格/Ver.2.01/Ver.2.1)に準拠している地図ディスクを見たり、地図上の情報を検索することができます。

使いかたについて詳しくは、「Navin' You Version 2.0 Lite」のオンラインマニュアルをご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- ゲームを楽しむ

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

拡張編

この章では、本機とプリンターなどの周辺機器や電話回線との接続のしかたなどを説明します。

第 2 章

電話回線につなぐ

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機を電話回線につなぐと、インターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。

内蔵モデムの通信速度は、データ受信時最大56kbps、データ送信時最大33.6kbpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

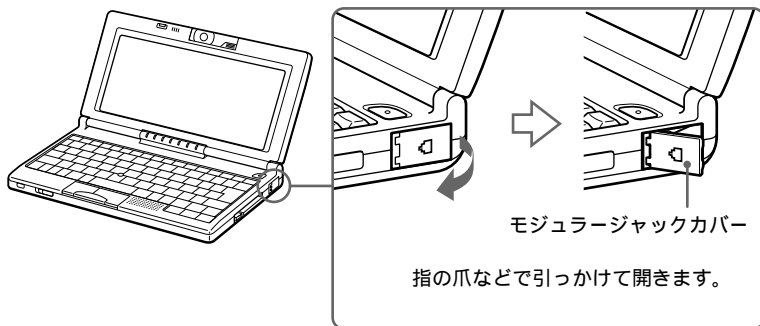
1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、電話機から「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなく、ダイヤルを回す電話機、ダイヤルボタンを押すたびに電話機から「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 モデムのダイヤル方法を設定する。

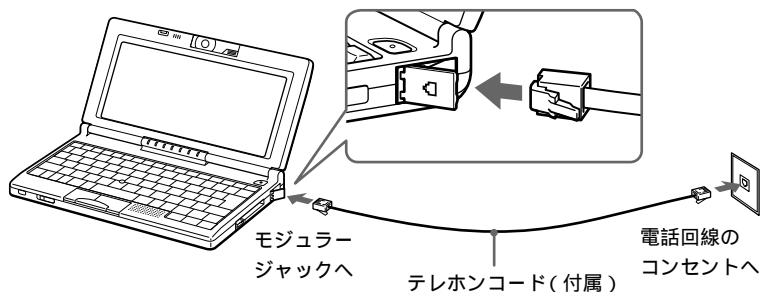
- ① [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、
[コントロールパネル] をクリックする。
- ② [コントロールパネル] 中の [モデム] をダブルクリックする。
- ③ [ダイヤルのプロパティ] をクリックする。
- ④ [ダイヤル方法] からお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて
[トーン] または [パルス] を選択する。
- ⑤ [OK] をクリックして「ダイヤルのプロパティ」ダイアログボックスを閉じる。
- ⑥ [OK] をクリックして「モデムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じる。

3 モジュラージャックカバーを開ける。

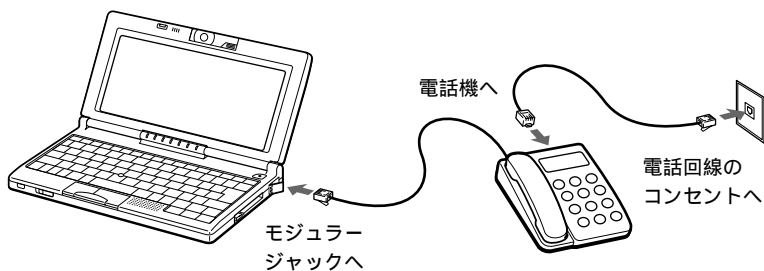


4 電話回線につなぐ。

モジュラージャックは本機の後ろ側から、モジュラープラグのつめがカチッとロックするまで斜めに差し込みます。



モジュラージャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。



次のページにつづく

ご注意

接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などの設定を、ソフトウェアで設定する必要があります。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

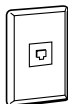
電話回線についてのご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線です。PBX回線には接続しないでください。
- ISDN回線にデジタルで接続する場合は、PCカードのTA(ターミナルアダプター)カードまたはUSB接続のTAが必要です。
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、60秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。
- 契約したプロバイダーがK56flexに対応している場合、通信状態が極めて良好なときは最大56Kbpsで通信が可能ですが、一般的には56Kbpsより遅い通信速度になります。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
モジュラー型	不要(そのままつなぐことができます)



3ピンジャック型

テレホンモジュラーアダプターTL-30



直付け型ローゼット¹⁾

モジュラーローゼットTL-32CRなど



埋め込み型²⁾

テレホンモジュラージャックコンセントTL-31



¹⁾ 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。NTT(局番なしの116番)へご依頼ください。

²⁾ 電話工事担当者による取り付け工事が必要です。NTT(局番なしの116番)へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となる場合があります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

CD-ROMドライブをつなぐ

CD-ROMはコンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。ここでは、別売りのCD-ROMドライブユニットPCGA-CD5の取り付けかたについて説明します。

ご注意

- 接続のしかたは、お使いになるCD-ROMドライブによって異なります。詳しくはCD-ROMドライブの取扱説明書をご覧ください。
- CD-ROMドライブによっては本機で使用できないものもあります。詳しくは、VAIOテクニカルレスポンスセンターまたは販売店にご確認ください。

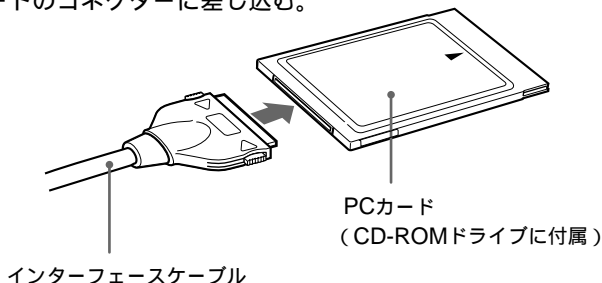
CD-ROMドライブを取り付ける

PCGA-CD5はPCカードを使って本機と接続します。

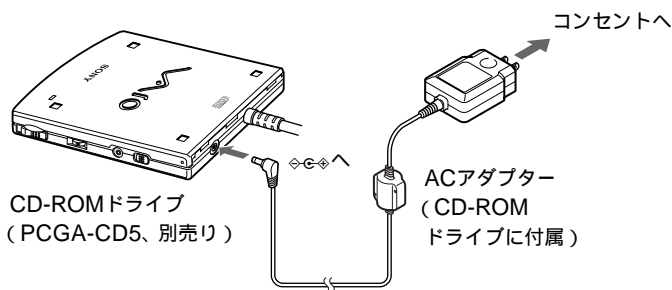
ご注意

- 工場出荷時、CD-ROMドライブのレンズ部分にピックアップカバーが装着されています。ピックアップカバーを取りはずしてからご使用ください。
- プロダクトリカバリ CD-ROMをCD-ROMドライブに入れて本機を再セットアップするときは本機の電源を切ってからCD-ROMドライブを取り付け、本機の電源を入れ直してください。それ以外のときは、本機の電源を入れたままでもCD-ROMドライブを取り付けることができます。

- 1 PCカードスロットプロテクターを取りはずす。
詳しくは、「PCカードを取り付ける」(118ページ)の手順1をご覧ください。
- 2 CD-ROMドライブのインターフェースケーブルのプラグを、PCカードのコネクターに差し込む。



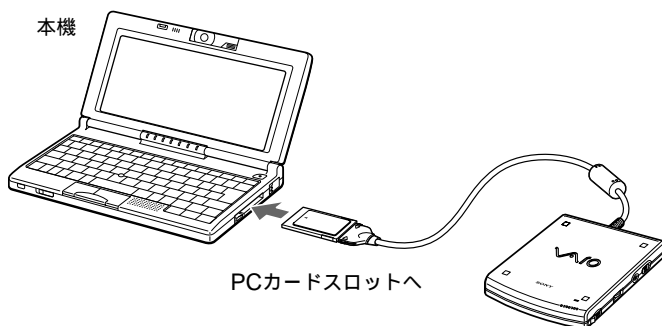
3 CD-ROMドライブの電源をつなぎ、電源を入れる。



4 PCカードを本機に取り付ける。

PCカードの上下を確認してから取り付けます。スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。取り付けかたについて詳しくは、「PCカードを取り付ける」の手順2(119ページ)をご覧ください。

「マイコンピュータ」内にCD-ROMドライブのアイコンが表示されます。



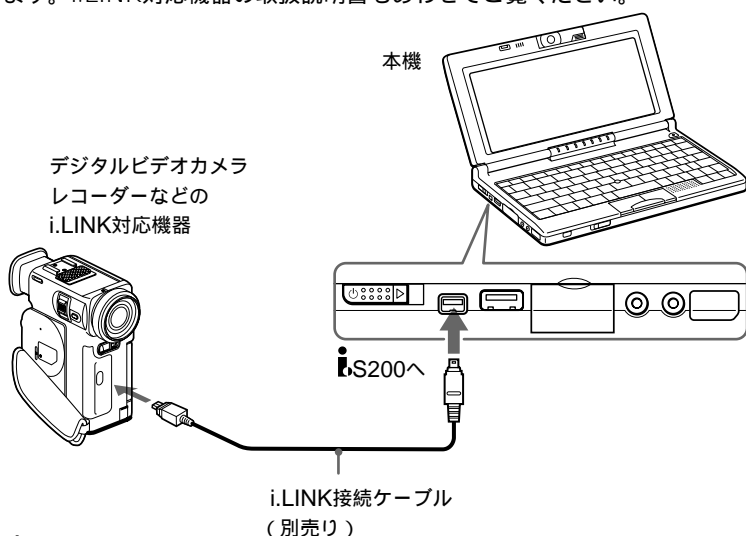
CD-ROMドライブを取りはずすには

「PCカードを取り出す」(120ページ)の手順に従ってPCカードを取り出します。

i.LINK対応機器をつなぐ

本機左側面のi.LINK(IEEE1394)コネクタにデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を接続し、本機に静止画をデジタルのまま取り込むことができます。

i.LINK接続ケーブル(別売り)を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



i.LINK対応機器として、DV端子を備えたソニー製のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することができます。

ご注意

- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。ソフトウェアの制限により、同時に2台のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは、i.LINK対応機器に電源を供給しません。i.LINKコネクタからの電源供給が必要な一部の機器は、正しく使用できないことがあります。
- 本機のi.LINKコネクタは最大200Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は同時に接続したi.LINK対応機器のうち最も転送速度の遅い機器に合わせられます。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属している「DVgate still」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

デジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込みます。ここではソニーデジタルスチルカメラ「サイバーショット」と本機を赤外線で接続する方法と、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

ご注意

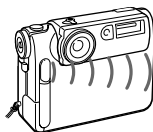
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 赤外線で接続するには、赤外線通信を使えるようにする必要があります。詳しくは「赤外線データやりとりするには」(90ページ)をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラと赤外線で接続する

ソニーデジタルスチルカメラ「サイバーショット」には赤外線通信機能があるので、ケーブル接続は必要ありません。

本機左側面の赤外線通信ポートと「サイバーショット」(DSC-F1/F2/F3)の赤外線通信ポートが真正面向き合うように設置します。

ソニーデジタルスチル
カメラ
「サイバーショット」



本機



画像を取り込む

本機に付属している「PictureGear Version 2.5 SE」ソフトウェアを使って、画像を取り込みます。

操作方法について詳しくは、「PictureGear Version 2.5 SE」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

他のデジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、一般的に次の方法があります。お使いの機種に合った方法で、画像を取り込んでください。

- 画像を記録したフロッピーディスクを本機のフロッピーディスクドライブに入れる。ソニーデジタルスチルカメラMVC-FD51/FD71などで記録したフロッピーディスクの画像は、本機に付属の「PictureGear Version 2.5 SE」ソフトウェアで取り込めます。
- PCカードに画像を記録するデジタルスチルカメラのときは、メモリーカードを本機のPCカードスロットに差し込む。
PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」(117ページ)をご覧ください。

ご注意

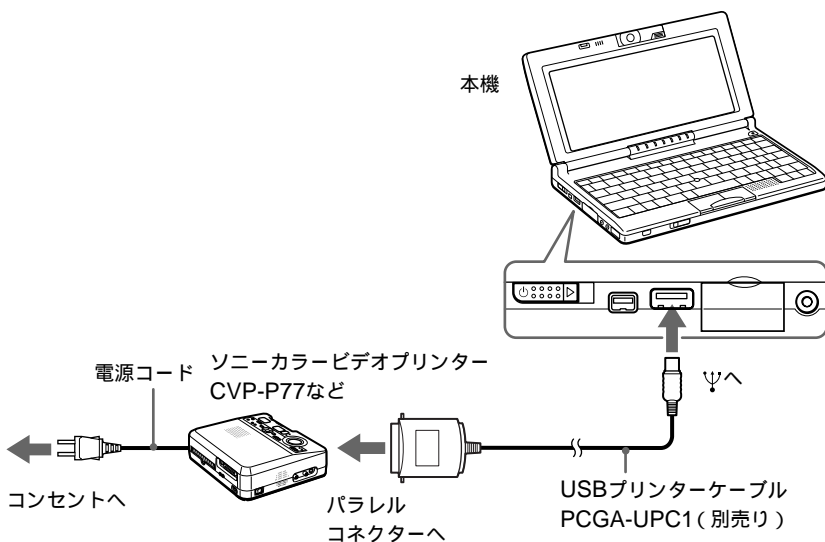
お使いの機種およびソフトウェアが本機に対応しているかどうかについては、デジタルスチルカメラおよびソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

プリンターをつなぐ

プリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。プリンターによってつながりかたが異なります。

パラレルコネクター付きのプリンターをつなぐ

USBプリンターケーブルPCGA-UPC1(別売り)を使ってつなぎます。

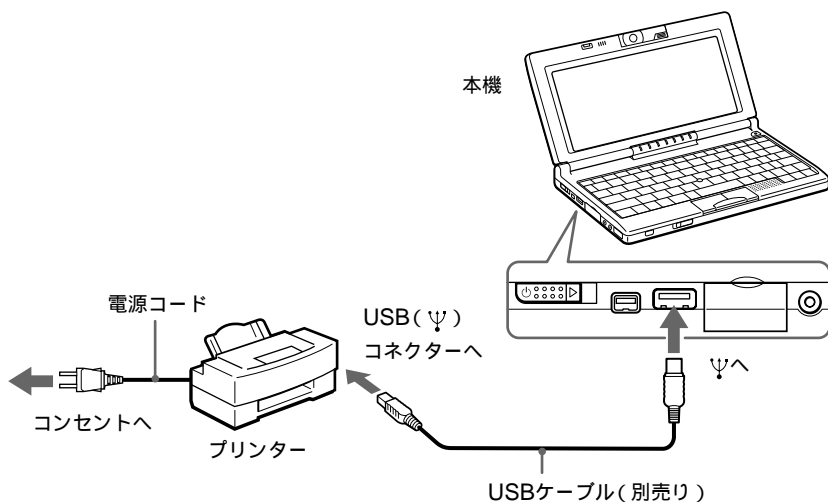


ご注意

USBプリンターケーブルPCGA-UPC1(別売り)に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しないことがあります。詳しくは、VAIOテクニカルレスポンスセンターおよび販売店にご確認ください。

USB対応のプリンターをつなぐ

別売りのUSBケーブルを使ってつなぎます。



ご注意

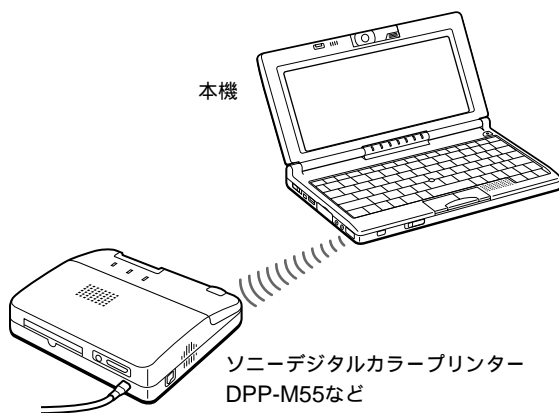
- プリンターをご使用中であっても、「PowerPanel」ソフトウェアのタイマー機能は動きません。使用中でも、省電力のため画面が暗くなり、システム サスペンドモードやシステム ハイパーネーションモードに入ります。プリンターをお使いのときは、ACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してください。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイパーネーションモードに入らないようになっています。システム サスペンドモードとシステム ハイパーネーションモードについて詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの残量を確認する」をご覧ください。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- プリンターの取扱説明書などでUSBコネクターの形状をご確認の上、USBケーブルをご購入ください。

赤外線通信対応のプリンターを使う

本機には赤外線通信ポートがあるので、ソニーデジタルプリンターDPP-M55など赤外線通信機能があるプリンターとケーブルで接続しないで使うことができます。

本機左側面の赤外線通信ポートとプリンターの赤外線ポートどうしが向き合うように設置します。

お使いになるプリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。



プリンターを使用する

プリンターを使用するには、プリンターに付属のドライバーソフトを本機にインストールする必要があります。

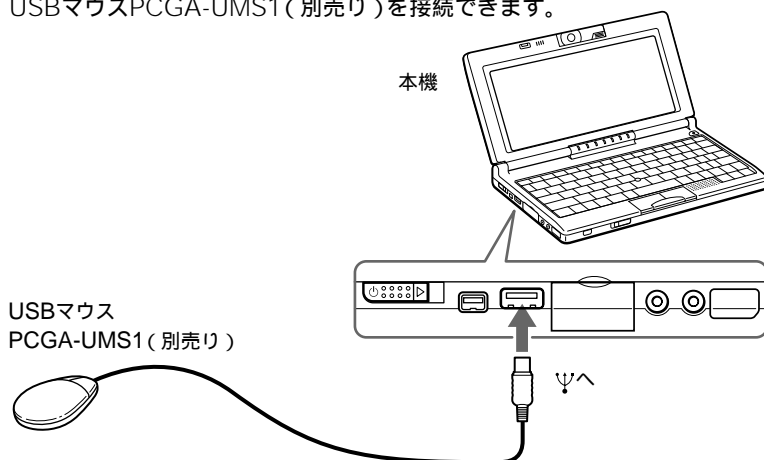
ご注意

本機には、プリンターポートが存在しないため、ドライバーソフトを本機にインストールする際、プリンターに付属のインストールプログラムから正常にインストールできないことがあります。この場合は、[マイコンピュータ]から[プリンタ]の[プリンタの追加]を選んで、画面の指示にしたがってプリンターのドライバーソフトをインストールしてください。

詳しくは、お使いになるプリンター、およびプリンターを接続する形態に合わせて、USBプリンターケーブルPCGA-UPC1(別売り)の取扱説明書をご覧ください。

マウスをつなぐ

USBマウスPCGA-UMS1(別売り)を接続できます。



ご注意

- PCGA-UMS1以外のマウスは本機で使用できないものがあります。詳しくは、マウスの販売元または販売店にご確認ください。
- USBマウスをご使用中であっても、「PowerPanel」ソフトウェアのタイマー機能は働きます。使用中でも、省電力のため画面が暗くなり、システム サスペンドモードやシステム ハイパーネーションモードに入ります。USBマウスをお使いのときは、ACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してください。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイパーネーションモードに入らないようになっています。システム サスペンドモードとシステム ハイパーネーションモードについて詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの残量を確認する」をご覧ください。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- シリアルマウスおよびPS/2マウスは使用できません。

外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、付属のVGA変換アダプターを使って、本機に外部ディスプレイを接続します。

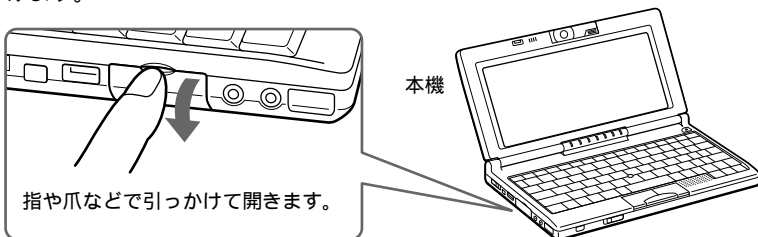
ご注意

- 本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

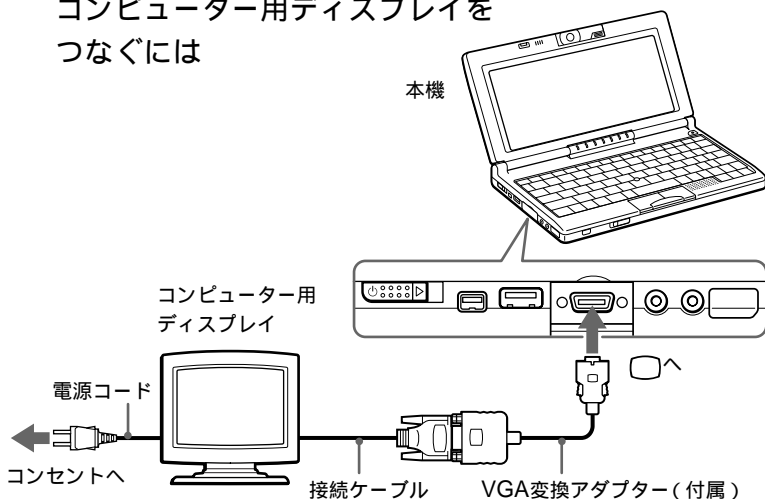


本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り換えられます。詳しくは、オンラインマニュアルの「表示するディスプレイを選ぶ」をご覧ください。

外部ディスプレイコネクターのカバーを開けるには外部ディスプレイをつなぐ前に外部ディスプレイコネクターのカバーを開けます。



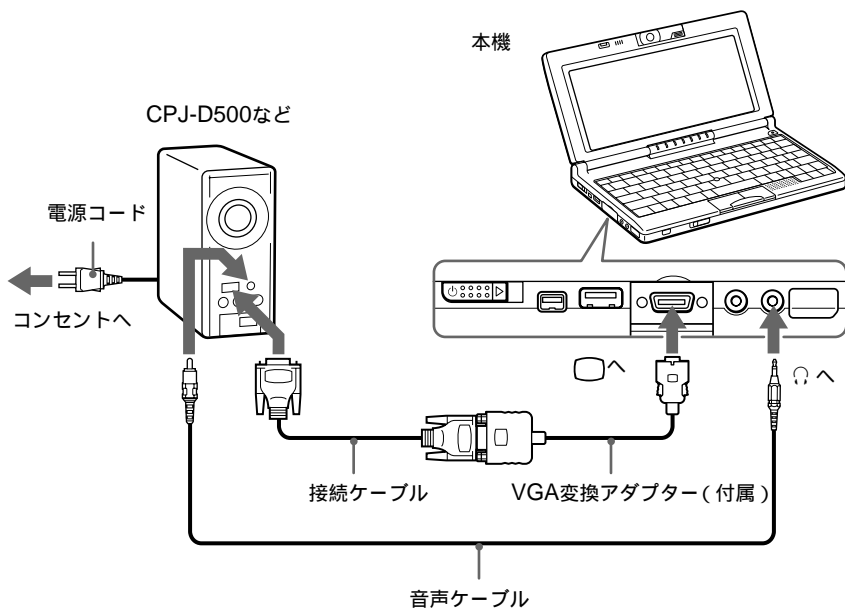
コンピューター用ディスプレイをつなぐには



液晶プロジェクターをつなぐ

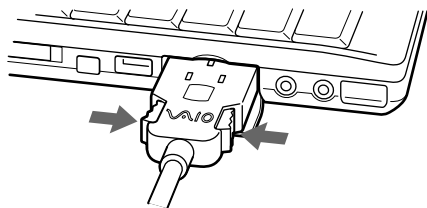
ソニーCPJ-D500などの小型の液晶プロジェクターを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。

接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。



VGA変換アダプターを取りはずすには

本機の電源を切ってから、コネクターの両端をつまんでVGA変換アダプターをはずします。



メモリーを増設する

別売りの専用メモリーを増設すると、データの処理速度や、複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

専用メモリーの増設は、弊社の指定サービス窓口にて行ってください。
ご自分で増設されて故障が発生した場合は、保証期間中であっても有償修理となります。

PCカードを使う

本機には、PC CardタイプとタイプIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また、本機のPCカードスロットはCard BusおよびZV(Zoomed Video) Portにも対応しています。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリーカード

データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

SCSIカード

MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

TA(ターミナルアダプター)カード

ISDN回線に接続できます。

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- 別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5などの一部のPCカードを本機で使用して、システム サスペンドモードまたはシステム ハイバーネーションモードを通常の動作モードに戻す操作を繰り返すと、一部のデバイスが使えなくなることがあります。その場合は、本機を再起動すると正常に動作します。

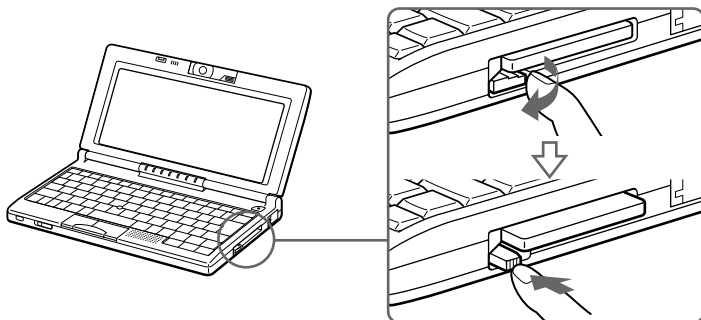
PCカードを取り付ける

PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

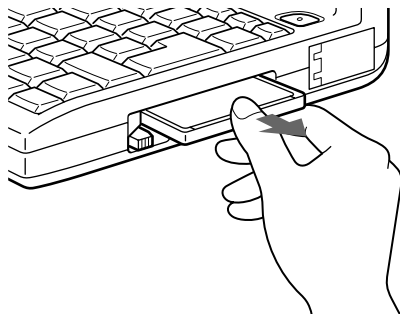
1 PCカードスロットプロテクターを取り出す。

スロットを保護するために、PCカードスロットプロテクターが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクターを取り出す必要があります。

- ① イジェクトボタンを起こしてから、ボタンを押す。
プロテクターが出ます。

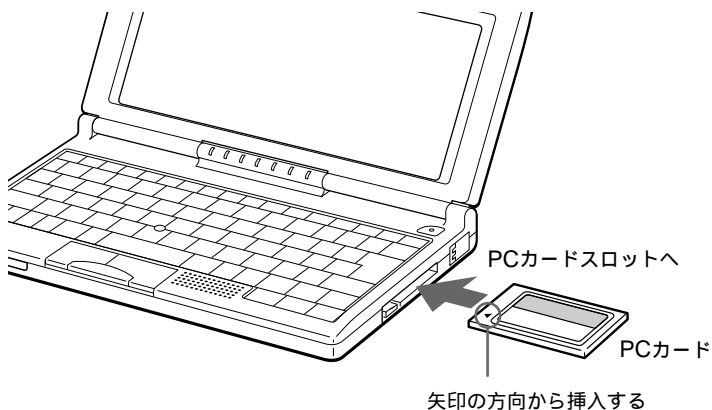


② プロテクターの端を持って、スロットから引き抜く。



2 カードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



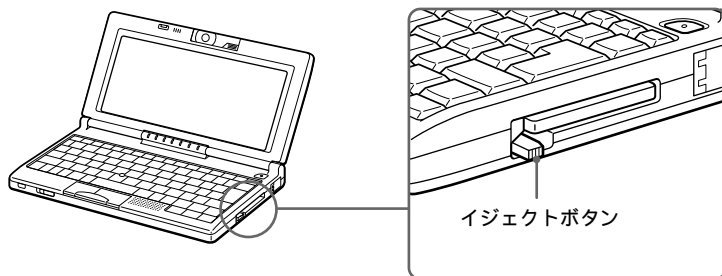
取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

PCカードを取り出す

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出し方をすると、システムが正常に動作しない可能性があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [PCカード]をダブルクリックする。
- 3 リストから取り出したいPCカードを、次に[終了]ボタンを順にクリックする。
- 4 「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら[OK]ボタンをクリックする。
- 5 PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。
カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



カードを引き抜いた後は、スロットを保護するために、必ずPCカードスロットプロテクターを挿入してください。

その他

第 3 章

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 内蔵カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入/切にかかわらず、カメラを太陽に向けしないでください。カメラの故障の原因となります。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。

結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじについて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。(有効画素99.99%以上)

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化(毎時10 以上の変化)のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

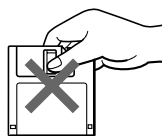
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないこととなります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

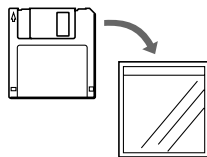
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



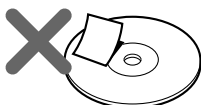
CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 文字の書かれていない面(再生面)に触れないようにして持ちます。



- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、CD-ROMは必ずケースなどに入れて保管してください。

ACアダプターについて

- 本機には、付属のACアダプター(極性統一形プラグ・EIAJ規格)をご使用ください。上記以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。



極性統一形プラグ

- ACアダプターを海外旅行者用の電子式変圧器などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。

コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウイルスチェックをする。
 - 本機にはコンピューターウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。また、ウイルスに関するデータファイルを常に更新することをお勧めします。
- インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを手に入れます。

<http://www.nai.com/japan/>

- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がる場合がありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピーは禁止されています

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。

また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用などを表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。

ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。

市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用した場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

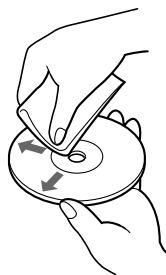
- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

レンズのお手入れ

内蔵カメラのレンズ表面のほこりは、ブローブラシか、柔らかい刷毛でとります。汚れがひどいときは、市販のレンズクリーニングクロスなどで拭き取ってください。

保証書と アフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

VAIOテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピューターの修理は引取修理を行っています。当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、当社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではノートブックコンピューターの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名 : PCG-C1
- 製造番号 :
- 故障の状態 : できるだけ詳しく
- 購入年月日 :

主な仕様

本体

プロセッサ

MMX®テクノロジー Pentium®プロセッサ
233 MHz

チップセット

Mobile Triton II (430TX) PCIチップセット

2次キャッシュ

256 Kバイト (マルチバンクDRAM)

メインメモリー

64 Mバイト (SDRAM)
最大96 Mバイトまで拡張可能

メモリースロット

専用メモリースロット (1)

グラフィックアクセラレーター

128ビット高速グラフィックアクセラレーター
NeoMagic Magic Media 256AV+
(NM2200)

ビデオメモリー

約2.5 Mバイト (ビデオチップ内蔵)

液晶ディスプレイ表示モード

1024 × 480ドット (約1,677万色¹⁾)
640 × 480ドット (約1,677万色¹⁾)
1)グラフィックアクセラレーターのデザイン
により実現

外部ディスプレイ表示モード

1,280 × 1,024ドット (256色)
1024 × 768ドット (約1,677万色)
1024 × 480ドット (約1,677万色)
800 × 600ドット (約1,677万色)
640 × 480ドット (約1,677万色)

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44 Mバイト / 1.2 Mバイト /
720 Kバイト

ハードディスクドライブ

約3.2 Gバイト
(1 Gバイト=10億バイトで算出)

外部接続端子

i.LINK(IEEE1394)コネクター
S200 4ピン (1) (S200=200Mbps)

USBコネクター

USB4ピン (1)

マイク入力コネクター

モノラルミニジャック (1)

ヘッドホン出力コネクター

ステレオミニジャック (1)

モデムコネクター

モジュラージャック (1)

赤外線ポート

IrDA 1.1、最大4Mbps (1)

Analog RGB

専用コネクター (変換ケーブル付属)

PCカードスロット

Type I / II × 1、CardbusおよびZV port対応

オーディオ機能

SoundBlasterPro互換 (16ビットステレオ)、
モノラルスピーカー

内蔵ファックスモデム

k56flex対応

データ受信時最大 56Kbps

データ送信時最大 33.6Kbps

ファックス送信時最大 14.4Kbps

ボイス機能、ハンズフリー電話機能対応

ポインティング・デバイス

スクロール機能対応スティック式ポインティ
ング・デバイス

内蔵カメラ

27万画素 (有効25万画素)

撮像素子 1/6インチ27万画素CCD

レンズ

2群2枚、f=2.8 mm F:2.8

露出制御 自動

ホワイトバランス 自動

色数

24ビット RGB

イメージサイズ

80 × 60、100 × 120、320 × 240

表示フレーム数

最大30フレーム / 秒 (オーバーレイ表示)

Video for Windows (Ver1.1以降) 対応

電源・その他

電源

ACアダプターまたはバッテリーパック
バッテリー駆動時間(省電力モード時)

標準タイプ 約1.5～3時間

大容量タイプ 約3.5～6.5時間

内蔵カメラを使うソフトウェア使用時:

標準タイプ 約1～2.5時間

大容量タイプ 約2.5～5.5時間

動作温度

5～40 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

10%～90%(結露のないこと)

動作湿球温度

29 以下

保存温度

-40～65 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

10%～90%(結露のないこと)

保存湿球温度

29 以下

外形寸法

約240×38×140 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約1.1 kg(標準タイプバッテリー装着時)

ACアダプター

電源

AC 100～240 V、50/60 Hz

消費電力

最大40 W

出力電圧・電流

最大16 V、2.1 A

動作温度

5～35 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

10%～90%(結露のないこと)

保存温度

-20～60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

10%～90%(結露のないこと)

外形寸法

約50×23.9×146 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約215 g

バッテリーパック

出力電圧・容量

11.1 V、1550 mAh

動作温度

5～35 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

10%～90%(結露のないこと)

保存温度

-20～60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

10%～90%(結露のないこと)

外形寸法

約207.7×19.9×25 mm

(幅/高さ/奥行き)

質量

約170 g

付属品・別売り品

付属品

「はじめにお読みください」の「付属品を確かめる」をご覧ください。

別売り品

ACアダプター

PCGA-AC51

リチャージャブルバッテリーパック

PCGA-BP11(標準タイプ)

PCGA-BP12(大容量タイプ)

CD-ROMドライブユニット

PCGA-CD5

USBプリンターケーブル

PCGA-UPC1

64MB増設メモリーモジュール

PCGA-MM564SD

USBマウス

PCGA-UMS1

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

リカバリCDで本機を再セットアップする

ここでは、別売りのCD-ROMドライブで付属のプロダクト リカバリ CD-ROM(以後、リカバリCDと略します)を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリCDとは

リカバリCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

ご注意

- 本機専用のCD-ROMドライブPCGA-CD5以外のCD-ROMドライブをお使いのときは、リカバリCDを使うために起動用ディスクを作成する必要があります。起動用ディスクを作成しないと、Windowsが起動できなくなった場合に、リカバリCDを使って本機を再セットアップすることができなくなります。正常に動作しているときに起動用ディスクを作成するようおすすめします。
- 付属のリカバリCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。またWindows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリCDで再セットアップしたあと、続いてWindows 98のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 98 ファーストステップガイドの表紙に記載されている、プロダクト キーが必要になります。Microsoft Windows 98 ファーストステップガイドは大切に保管してください。

準備する

- 1 CD-ROMドライブを本機に取り付ける。
詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」(106ページ)をご覧ください。
- 2 本機をACアダプターにつなぎ、AC電源を接続する。

再セットアップする

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5をお使いのときは、以下のよう
に操作します。PRD-650/250をお使いのときは、次ページをご覧ください。

- 1 付属のプロダクト リカバリ CD-ROM Vol.1 of 2をCD-ROMド
ライブに入れてから、本機の電源を入れる。
「プロダクト リカバリ CD-ROM リストアユーティリティ」画面が表示
されます。
- 2 「BIOSの設定値を初期化するためにコンピューターを再起動して
もいいですか(Yes/No?)」と表示されたら、Yキーを押してから
Enterキーを押す。
本機が再起動します。
- 3 画面の指示に従って操作し、「(Yes/No?)」が表示されたときは、
Yキーを押してからEnterキーを押す。
本機の再セットアップが始まります。
作業中にEscキーを押すと再セットアップを中断することもできま
すが、その場合は再セットアップをはじめからやり直す必要がありま
す。
再セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示
に従って本機を再起動してください。

PRD-650 / 250用の起動ディスクを作成する

ソニー製のCD-ROMドライブPRD-650 / 250をお使いの場合には、以下の手順で起動用ディスクを作成できます。

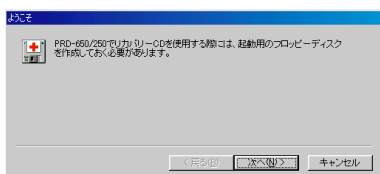
準備する

本機でPRD-650 / 250を使用できる状態にしておく。

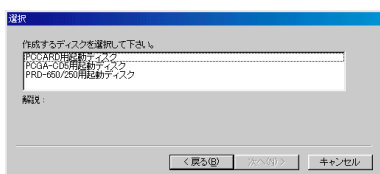
- PRD-650 / 250のWindows接続キットに付属しているフロッピーディスク内の、[setup.exe]をダブルクリックして実行する。
- PRD-650 / 250を本機に接続しておく。
- フロッピーディスクドライブを本機に接続しておく。

起動用ディスクを作成する

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[VAIO] にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ] を選び、[リカバリ用起動ディスク作成ツール] をクリックする。
「ようこそ」の画面が表示されます。



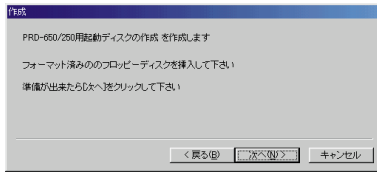
- 2 [次へ >] をクリックする。
「選択」の画面が表示されます。



- 3 リストの中から使用するCD-ROMドライブを選び、[次へ >] をクリックする。

4 フロッピーディスクを入れる。

フロッピーディスクに「PRD-650 / 250起動ディスク」と書いたラベルを貼ってから、フロッピーディスクドライブに入れます。



5 [次へ]をクリックする。

フォーマットが始まります。

フォーマットが終わると、引き続き必要なファイルのコピーが始まります。

6 「終了」の画面が表示されたら、[完了]をクリックする。

これで起動ディスクの作成は終了です。

起動ディスクを確認する

作成した起動ディスクで、CD-ROMドライブを使用できるかどうか確かめます。

- 1 本機の電源を切る。
- 2 作成したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れてから、電源を入れる。
- 3 本機が起動したら、以下のように入力する。
A: ¥ >dir g:
CD-ROMドライブに入れたCD-ROMの内容が表示されます。
「無効なドライブの指定です」と表示されたときは、起動ディスクを正常に作成できなかった可能性があります。「起動ディスクを作成する」(132ページ)の手順をはじめからやり直してください。
- 4 本機の電源を切る。

本機を再セットアップするときは


起動ディスクを使って本機を再セットアップするときは、次の手順に従って操作してください。










- 1 CD-ROMドライブを本機につなぎ、付属の「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.1 of 2」を入れる。
- 2 フロッピーディスクドライブを本機につなぎ、作成した起動ディスクを入れてから、本機の電源を入れる。
- 3 以下のように入力してからEnterキーを押す。
A: ¥ >A:install
- 4 「再セットアップする」(131ページ)の手順2を実行する。
- 5 起動用ディスクから起動したら、もう1度「A:install」と入力し、Enterキーを押す。
「プロダクト リカバリ CD-ROM リストアユーティリティ」が起動します。
- 6 131ページの手順3を行う。
本機の再セットアップが始まります。
詳しくは、画面の指示にしたがって操作してください。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例： + F → Windowsキーを押しながらFキーを押す。









組み合わせ	機能
 + F1	Windowsのヘルプを表示します。
 + Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
 + E	エクスプローラ ¹⁾ を起動します。
 + F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]の[ファイルやフォルダ]を選んだときと同じです。
 + Ctrl + F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]の[ほかのコンピュータ]を選んだときと同じです。
 + M	表示しているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift +  + M	 + Mで最小化したすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
 + R	「ファイル名を指定して実行」を表示します。 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行...]を選んだときと同じです。

¹⁾ コンピューターの内容(ファイルやフォルダ)をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

Fnキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例 : Fn +  (Esc) → Fnキーを押しながらEsc(エスケープ)キーを押す。

組み合わせ	機能
Fn+  (Esc)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブなどへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。CPUへの電源供給も停止します。(システム サスペンドモード)
Fn+  (F2)	使用電源の状況を表示します。 例)  AC電源で使用
Fn+  (F3)	本機のスピーカーの音声を入/切します。
Fn+  (F4)	本機のスピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量設定が表示されます。このときに または キーを押すと大きくなり、 または キーを押すと小さくなります。(64段階で調節できます)
Fn+  (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ設定が表示されます。このときに または キーを押すと明るい画像になり、 または キーを押すと暗い画像になります。(9段階で調節できます)
Fn+  (F7)	外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示 外部ディスプレイのみ 液晶ディスプレイのみ ... マルチディスプレイモードを使用中は無効です。
Fn+  (F12)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやRAMへの電源供給も停止します。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。(システム ハイパーネーションモード)
Fn+ D	本機の画面が暗くなり、ビデオスタンバイ状態になります。この時、内蔵カメラの電源も切れます。いずれかのキーまたは CAPTURE ボタンを押すともとの状態に戻ります。





故障かな？と思ったら

VAIOテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターまたはお買い上げ店にご相談ください。

ご注意

再起動したり、電源を入れ直す場合、かならず「電源を切る」(28ページ)の手順にしたがい、いったん電源を切ってください。他の方法で本機の電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。


症状	原因 / 対策
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">本機とACアダプター、ACアダプターとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。バッテリーが正しく装着されているか確認する。バッテリーが放電しきっている。バッテリーを充電し、電源を入れ直す。結露している。1時間くらい待って電源を入れ直す。内蔵バックアップバッテリーが消耗している。ACアダプターをつないだまま十数分放置してから、電源を入れ直す。
液晶ディスプレイに何も表示されない。	<ul style="list-style-type: none">LCD/Videoスタンバイモードになっている。いずれかのキーを押す。外部ディスプレイに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。
外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
スティックに触れていないのに画面上のポインターが動く	<p>通常の操作状態でスティックを使っていないにもかかわらず、ポインターが自然に動くことがまれにあります。これは「ドリフト」と言い、故障ではありません。しばらくスティックから指を離しておけば、ポインターは止まります。ドリフトは以下の場合に起こることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">電源を入れた直後システム サスペンドモードから通常の状態に戻った直後ポインティング・デバイスを長時間使用し続けたとき温度が急激に変化したとき

症状	原因 / 対策
スティックをたたくと、左ボタンを押していないのにクリックされる。	<p>プレスセレクト機能が有効になっていないか確認してください。(工場出荷時の設定は無効になっています。)</p> <p>詳しくは、オンラインマニュアルの「ポインティングデバイスの設定を変更する」をご覧ください。</p>
画面上のポインターが動かない。	<ul style="list-style-type: none"> • しばらくすると動くようになります。 しばらく待っても動かないとき • キーを押して[スタート]メニューを表示させ、 キーまたは キーを押して[Windowsの終了]を選んでEnterキーを押し、[電源を切れる状態にする]を選んでEnterキーを押す。 • キーを使って電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。 • 上記の操作でも何も起こらないときは、パワースイッチを4秒以上の方向にずらして電源を切る。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。
フロッピーディスクが取り出せない。	45ページをご覧ください。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	<p>フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。</p> <p>その後、キーボードのいずれかのキーを押す。</p>
電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。	<p>フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っていないか確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っていた場合は、本機の電源を切ってフロッピーディスクを取り出してから、本機の電源を入れ直し、Windowsが起動するか確認してください。 • 上記の手順で起動しない場合や、フロッピーディスクが入っていない場合は、「BIOSの初期化」(146ページ)をご覧ください。

症状	原因 / 対策
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(46ページ) ・フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 ・「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って保存し直す。
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(46ページ)
スピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・本機の内蔵スピーカーが「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。(136ページ) ・本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、またはキーを押して音量を上げる。(136ページ) ・\odotコネクタにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。
Fnキーを押しながらF3キーを押すと「Sound Disable」と表示される。	「システムのプロパティ」画面の「デバイスマネージャ」タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。
内蔵マイクで音声を録音すると雑音が入る。	ハードディスクのアクセス音などが録音されてしまうため、故障ではありません。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」(35ページ)をご覧ください。
アルファベットのかわりに数字が入力される。	Num Lkキーを押して、 $\overline{\text{NL}}$ (Num Lock)ランプを消灯させる。
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいアプリケーションソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。(画面上では薄い色のウィンドウになります。)ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。

症状	原因 / 対策
URLで使われる半角の「~」が入力できない。	MS-IME98ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「^」を押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(35ページ)をご覧ください。
全角の「~」が入力できない。	MS-IME98ツールバーで「ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し、「~」が選ばれるまでスペースキーを押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(35ページ)をご覧ください。
ハードディスクから起動できない。	フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。
CD-ROMドライブから起動できない。	別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5以外のCD-ROMからは、本機を起動できません。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリCDで本機を再セットアップする」(130ページ)をご覧ください。
画面上のすべてのものが動かなくなりました。	CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して再起動する。
電源が切れない。	パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらす。
PCカードが使えない。	Windows 98対応でないPCカードは使えないことがあります。
ゲームをしているときや、動画を再生しているときの動きがぎこちない。	「PowerPanel」ソフトウェアのアプリケーションバーを右クリックして「CPUスピード変更」を選び、「Auto」のチェックをはずして、スピードコントローラーを「100%」に設定する。 詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
内蔵カメラを使って、暗い背景の中で明るい被写体を映すと縦に尾を引いたような画像になる。	スミアという現象で故障ではありません。
「Smart Capture」のファインダーに映る画像が粗い。	<ul style="list-style-type: none"> 撮影する静止画のサイズがファインダーのサイズより極端に小さいとき(40×30など)、画像が粗く表示されることがあります。 動きの速い被写体をファインダーに表示させると、画面の途中に水平方向に段差のようなものが発生することがありますが、故障ではありません。

症状	原因 / 対策
内蔵カメラで取り込んだ静止画、動画の画像が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> • 蛍光灯の下で撮影した画像は光の反射が映ることがあります。 • 取り込んだ画像に暗い部分があるときは、赤や緑のノイズが出る場合があります。 • 640 × 480のサイズで取り込んだ静止画は、480 × 240のサイズで取り込んだ画像を処理して作っているため、画像が粗くなる場合があります。 • 640 × 480での静止画の取り込みは、システムに負荷がかかるため、撮影時のタイミングがずれることがあります。 • レンズが汚れていると、きれいに撮影できません。レンズが汚れていないか確認し、汚れていたらきれいにしてください。(126ページ) • ピントが合っていない場合は、フォーカスリングでピントを合わせてください。(59ページ)
動画を取り込むときに、コマ落ちが発生したり、音声が届かなくなったりする。	<ul style="list-style-type: none"> • 外出先などでバッテリーを使って本機を動作させ、動画を取り込むときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときは映像のコマ落ちが発生したり、音声が届かなくなったりすることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」をご覧ください。 • 「Smart Capture」ソフトウェアのエフェクトの設定により、コマ落ちが発生することがあります。詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
「Sonicflow」で音楽を再生すると音声が届かなくなる。	<p>外出先などでバッテリーを使って本機を動作させ、「Sonicflow」ソフトウェアで音楽を再生するときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときは映像のコマ落ちが発生したり、音声が届かなくなることがあります。「PowerPanel」について詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」をご覧ください。</p>
内蔵カメラからの映像が表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> • 他に内蔵カメラを使うアプリケーション (Smart Capture、CyberCode Finder、Sonicflowなど) が起動しています。それらのアプリケーションを終了してください。 • 上記のことをしても、内蔵カメラからの映像が表示されない場合は、本機を再起動してください。

症状	原因 / 対策
CyberCodeを内蔵カメラにかざしても、登録されているソフトウェアが起動しない。	<ul style="list-style-type: none"> • 内蔵カメラからの距離が遠すぎたり、CyberCodeが斜めになっていたり、手ぶれをおこなっている。しっかりと固定して、まっすぐ内蔵カメラに映す。 • 逆光や反射、暗がりではうまく映りません。適度な明るさの場所で使用してください。 • 外出先などでバッテリーを使って本機で「CyberCode Finder」を動作させるときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときはCyberCodeを認識しづらくなったり動作が不安定になることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、オンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」をご覧ください。 • ピントが合っていない場合は、フォーカシングでピントを合わせてください。(59ページ)
「Smart Capture」や「Smart Write」、「Smart Label」で音声録音できない。	<p>録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 タスクトレイの  をダブルクリックする。 2 [オプション]メニューから[プロパティ]を選ぶ。 3 「音量の調整」の[録音]と「表示するコントロール」の[Microphone]をチェックし、[OK]をクリックする。 4 「Microphone」の[選択]がチェックされているか確認する。 チェックされていないときは、チェックする。
「Smart Write」や「Smart Label」が起動しない。	<p>共有ライブラリーが壊れている可能性があります。「プロダクトリカバリ CD-ROM Vol. 2 of 2」を使って、G:¥VAIO¥Sony Shared Library¥setup.exeを実行して再インストールします。</p>
プリンターで印刷できない。	<ul style="list-style-type: none"> • プリンターケーブルが正しく接続されているか確認する。 • USBプリンターケーブルPCGA-UPC1(別売り)を使っているときは、プリンターがケーブルに対応しているか確認する。対応していないプリンターは動作しないことがあります。 • 赤外線通信機能を持つプリンターを使っているときは、赤外線通信ポートどうしが向かい合っているか確認する。

症状	原因 / 対策
内蔵モデムからダイヤルできない。	<ul style="list-style-type: none"> • お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。(102ページ) • 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。(103ページ) • テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。(103ページ) • 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間を置いてからリダイヤルしてください。 • 「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルが選ばれているか確認する。 • 「モデムの設定」(144ページ)をご覧ください。
モデムはダイヤルしているが、接続できない。	「ダイヤルの設定」(144ページの)をご覧ください。
インターネットに接続できない。	ディスプレイ画面上の[インターネットに接続]アイコンをダブルクリックして設定を確認する。
DV機器が使用できない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。	<ul style="list-style-type: none"> • DV機器の電源が入っているか、またはケーブルが正しく接続されているか確認する。 • i.LINKでは、複数の機器を接続して動くように設計されていますが、機器との組み合わせによっては、動作が不安定になることがあります。接続されている機器全ての電源をいったん切り、なるべく不要な機器を取り外して、ケーブルの接続を確認した後、再度電源を入れてください。 • 「DVgate still」ソフトウェアを起動してから、初めて接続するデジタルビデオカメラレコーダーを接続すると、認識するまでに時間がかかります。デジタルビデオカメラレコーダーを接続してから、「DVgate still」を起動してください。デジタルビデオカメラレコーダーとの接続手順については「DVgate still」の取扱説明書をご覧ください。

モデムの設定

モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]を選択して[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [モデム]アイコンをダブルクリックする。
- 3 [検出結果]タブをクリックする。
- 4 [COM2]を選択し、[詳細情報]をクリックする。
[詳細情報...]ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

- COMポートのリソース (IRQなど) が他のデバイスと競合していないか確認します。
[システムのプロパティ]の[デバイスマネージャ]で、デバイスのアイコンに！がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。
- モデムの設定をいったん削除し、もう一度組み込み直します。
[システムのプロパティ]の[デバイスマネージャ]で、[モデム]の中の[Sony Internal Modem]を削除します。Windowsを再起動するとモデムが検出され、対応するドライバーが自動的に組み込まれます。

ダイヤルの設定

うまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、モジュラーケーブルの接続を確認します。本体側のモジュラージャックと壁側のモジュラージャックの接続を確認します。予備のケーブルがあれば、ケーブルを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]を選択して[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [モデム]アイコンをダブルクリックする。
- 3 [Sony Internal Modem]を選択し、[プロパティ]をクリックする。
- 4 [最高速度]に遅めの数値 (標準は115200) を選ぶ。
- 5 少しずつ数値を小さくして試す。

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン(受話器を上げたときの「ツー」という音)の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定] [コントロールパネル]の順に選択する。
- 2 [コントロールパネル]の中の[モデム]をダブルクリックする。
- 3 [全般]タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、[プロパティ]をクリックする。
- 4 [接続]タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。
- 5 [OK]をクリックする。
- 6 「モデムのプロパティ」の[閉じる]をクリックする。

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されるときは、プロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。

設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを組み込み直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

- 1 [マイコンピュータ]をダブルクリックし、[ダイヤルアップネットワーク]をダブルクリックする。
- 2 接続先のアイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
- 3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。特に、次の点を重点的に確認してください。
 - [全般]タブの[電話番号]の設定(ISDN用の回線が別番号になっていることもあります)
 - [サーバーの種類]タブの設定
 - [サーバーの種類]タブの[TCP/IP設定]ボタンでの設定

プロトコルの設定の確認

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]を選択して[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。
- 3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。
特に、次の点を重点的に確認してください。
 - [現在のネットワークコンポーネント]に組み込まれているコンポーネント
 - 各コンポーネントのプロパティの設定

BIOSの初期化

本機の電源を切り、以下の手順でBIOSの初期化を行います。
フロッピーディスクドライブやPCカードなどは本機から取りはずしておいてください。

- 1 本機の電源を入れ直し、SONYのロゴマークが表示されている間に、F2キーを押す。
BIOSセットアップメニューが起動します。
- 2 キーで[Exit]を選び、キーで[Get Default Values]を選び、Enterキーを押す。
「Load default configuration now?」と表示されます。
- 3 [Yes]が選ばれていることを確認してから、Enterキーを押す。
[No]が選ばれているときは キーで[Yes]を選び、Enterキーを押します。
- 4 「Exit(Save Changes)」を選び、Enterキーを押す。
「Save configuration changes and exit now?」と表示されます。
- 5 [Yes]が選ばれていることを確認してから、Enterキーを押す。
[No]が選ばれているときは キーで[Yes]を選び、Enterキーを押します。
本機が再起動します。

上記の操作を行っても、再び「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない場合は、VAIOテクニカルレスポンスセンターへご相談ください。

索引

五十音順

ア

インターネット
インターネットとは 51
インターネットに接続する 54
インターネットを楽しむ 51
液晶ディスプレイ 21、122、136
液晶プロジェクター 116
延長ミニACコード 26
音楽CD 98
オンラインマニュアル 17

カ

外部ディスプレイ 115
カメラ
オリジナルの音楽を作曲する 96
静止画を取り込む 58
動画を取り込む 67
カメラからの映像で音楽を再生する 95
カメラでソフトウェアを起動する 79
キーボード
キーボードショートカット 135
キーボードを使う 33
起動用ディスク 132
クリック 31
ダブルクリック 31
右クリック 31
結露 122
コンピューターウイルス 124

サ

再起動 29
サウンドオブジェクト 95
システム サスペンドモード 136
システム ハイパーネーションモード 136
省電力動作モード
システム サスペンドモード 136
システム ハイパーネーションモード 136
スティック 30
キャップ 32
スピーカー 21、136
静止画 58
赤外線
赤外線通信ポート
22、89、109、113
赤外線データ通信 89、109、113

センターボタン 30
ソフトウェア
さばり 99
不正コピー禁止について 125
ワードパッド 35
BatteryScope 49
CyberCode Finder 79
Digital Media Park 98
DVgate still 61
Intellisync for Windows 91
Movie Player 67
Navin' You Version 2.0 Lite 99
PictureGear Version 2.5 SE 62、91、99
PowerPanel 49
PPK Setup 82、88
Smart Capture 58、67
Smart Label 76
Smart Publisher 74
Smart Write 72
Sonicflow 94
Still Viewer 59
VirusScan 125

タ

ターミナルアダプターカード 118
ダブルクリック 31
データ
書き込み禁止にする 46
バックアップをとる 123、125
やりとりする 89
ディスプレイ
液晶ディスプレイ 21、122、136
外部ディスプレイ 115
ディスプレイパネル 27
デジタルスチルカメラ
デジタルスチルカメラから画像を
取り込む 14、109
デジタルスチルカメラを使う 109
電子メール 53、63、70
電話回線
電話回線の種類 105
電話回線につなぐ 102
動画 67
ドラッグ 31

その他

ナ

- 内蔵カメラ
 - オリジナルの音楽を作曲する 96
 - 静止画を取り込む 58
 - 動画を取り込む 67
 - 内蔵カメラからの映像で音楽を再生する 95
 - 内蔵カメラでソフトウェアを起動する 79
- 内蔵スピーカー 21、136
- 内蔵モデム 102
- 日本語入力 35
- ネットワーク 93
- ネットワークカード 93、118

ハ

- ハードディスク 122
- バックアップをとる 123、125
- バッテリー
 - 充電する 50
 - 取り付ける 49
 - 取りはずす 50
 - ランプ 21、48
- パノラマ画像 62
- パラレルコネクター 111
- 左ボタン 30
- ビデオCD 98
- フォーカスリング 59、68
- プリンター
 - 赤外線通信対応プリンター 113
 - パラレルコネクター付きのプリンター 111
 - プリンタードライバー 113
 - プリンターをつなぐ 111
 - USB対応プリンター 112
- フロッピーディスク
 - 入れる 45
 - 使用できるフロッピーディスク 46
 - 初期化 45
 - データを書き込み禁止にする 46
 - 取り扱いについて 123
 - 取り出す 45
- フロッピーディスクドライブ
 - 取り付ける 43
 - 取りはずす 44
- プロバイダー 52
- ポインター 30

- ポインティング・デバイス
 - クリックする 31
 - スクロールする 31
 - スティック 30
 - センターボタン 30
 - ダブルクリックする 31
 - ドラッグする 31
 - 左ボタン 30
 - 右クリックする 31
 - 右ボタン 30

マ

- マウス 114
- 右ボタン 30
- メモリーカード 93、117
- メモをとる
 - 音声でメモをとる 76
 - 文字でメモをとる 72
 - Smart Label 76
 - Smart Write 72
- 文字入力 35
- モジュージャック 23、103
- モデム 52、102、144

ラ

- リカバリCD
 - 再セットアップする 131
 - リカバリCDとは 130

ワ

- ワードパッド 35

アルファベット順

A

ACアダプター 26
AC電源 26

B

BatteryScope 49

C

CAPTUREボタン 59、68
CD-ROM
お手入れ 126
取り扱いについて 124
CD-ROMドライブ
取り付ける 106
取りはずす 107
CPU 128
CyberCodeシール 79
CyberCodeメッセージカード 81
CyberCode Finder 79
CyberCode Setup 80

D

Digital Media Park 98
DVgate still 61

I

i.LINK 108
Intellisync for Windows 91
IrDA 89
ISDN 56

L

LAN 93

M

MAPI 65
MIDIファイル 98
Motion Eye 58、79、94
Movie Player 67
MS-IME98 36

N

Navin' You Version 2.0 Lite 99

P

PBX 7、104
PCカード
PCカードとは 117
PCカードを使う 93、106、117
PCカードを取り出す 120
PCカードを取り付ける 118
PictureGear Version 2.5 SE
62、91、99
PowerPanel 49
PPK Setup 82、88

S

SCSIカード 118
Smart Capture 58、67
Smart Label 76
Smart Publisher 74
Smart Write 72
Sonicflow 94
Still Viewer 59

T

TAカード 118

U

USB
フロッピーディスクドライブ 43
プリンター 112
マウス 114
USBケーブル 43、112
USBプリンターケーブル 111



V

VirusScan 125

W

WAVEサウンドファイル 97
Windows 98 27

LEAD TOOLS pro
Copyright ©1997
by LEAD Technology, Inc. & Bunka Orient Corp.

- VAI/Oはソニー株式会社の商標です。
- 「CyberCode」, CyberCodeロゴおよびCyberCodeマークはソニー株式会社の商標です。
- i.LINKはIEEE1394-1995仕様及びその拡張仕様、はi.LINKに準拠した商品につけられるロゴです。「i.LINK」とは商標です。
- Microsoft, MS, MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT, PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- So-net, ソネットおよびSo-netロゴは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の商標です。
- K56flexはLucent Technologies社とRockwell International社の商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは
VAIOテクニカルレスポンスセンターへ
0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは
VAIOカスタマー専用デスクへ
03-3584-6651

Sony online <http://www.world.sony.com/>

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan